

羽生市子ども読書活動推進計画

— 子どもが本と親しみ、

生きる力と創造力と豊かな心を

培うために —

平成 2 3 年 3 月

羽生市教育委員会

本を通して 子どもたちの未来を創る

読書活動によって、子どもは、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を養います。これは、人生をより豊かなものとし、また、子どもたちが生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものであります。

しかし、近年、テレビ、ビデオ、インターネット等の様々な情報メディアの発達・普及や、生活環境の変化、さらには乳幼児期から読書に親しむ習慣が形成されていないことなどにより、子どもの「読書離れ」が指摘されております。

平成21年5月に行われた「第51回学校読書調査」によると、不読者（1か月に1冊も本を読まなかった人）は、小学生で5.9%、中学生で24.8%、高校生で、50.7%となっています。本市でのアンケート調査の結果と同様に、学年が進むほど読書離れが進んでおります。

このような現状を踏まえ、羽生市では、次世代を担う子どもたちが、積極的に読書を行う意欲を高め、生涯にわたる読書習慣を身につけることができるよう「羽生市子ども読書活動推進計画」を策定しました。

この「羽生市子ども読書活動推進計画」は、本市が、これまで進めてきた子どもの読書環境の整備をさらに推進し、すべての子どもたちが、あらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができる環境を整備するために策定したものです。

結びに、この計画の策定にあたりまして、子ども読書アンケートを通して多くの貴重なご意見・ご提言をいただきました市民の皆様をはじめ、ご協力をいただきました多くの方々に心から感謝申し上げます。

平成23年3月

羽生市教育委員会教育長 小島敏之

本と出会い 子どもたちが育つ

詩のまち 羽生のために

羽生市は明治の文豪、田山花袋の名作『田舎教師』の舞台となった「まち」で、その書き出しには、「四里の道は長かった。その間に青縞の市の立つ羽生の町があった。田圃にはげんげが咲き、豪家の垣根からは八重桜が散りこぼれた。……。」とあります。時代の経過により、その風物や面影は消えかかろうとしています。私たちの心の中では、「ふるさと羽生」を象徴した貴重な作品となっています。また、この小説の中で、「山形古城」の名で登場する建福寺住職太田玉茗は、島崎藤村や国木田独歩らとともに新体詩の確立のために尽力した詩人であり、いわば現代詩の生みの親ともいえる方です。

読書は、子どもたちの知的成長、精神的成長に大きな役割を果し、より豊かな人生を送るために必要なものです。

平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行され、子どもが健やかに成長していく上での読書活動の重要性が、改めて認識されています。

この度、国や県の計画を踏まえ、羽生市の取組をさらに進めるために「羽生市子ども読書活動推進計画」が策定されました。この計画は、羽生市の子どもたちが読書の楽しみを知り、自主的に読書活動を行うことができる環境を整備するためのものであり、本市の子どもたちの読書活動を積極的に推進する指針となるものと考えています。今後とも、より一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本計画に対して多大なるご尽力を賜りました検討委員の皆様、そして、多くの貴重なご意見・ご提言をいただきました多くの市民の方々に心から感謝申し上げますとともに、太田玉茗の生まれた町、詩のまちとして羽生の多くの子どもたちが創作活動に取り組んでくれるよう、この計画に大きな期待を抱いています。

平成23年3月

羽生市長 河田 晃 明

羽生市子ども読書活動推進計画目次

第1章 計画策定の背景

1. 子どもの読書活動の現状 1
 - (1) 日本の子どもの現状
 - (2) 羽生市の子どもの現状
2. 子どもの読書活動の意義 2
3. 国・県の動向 2
 - (1) 国の動向
 - (2) 埼玉県動向

第2章 羽生市子ども読書活動推進計画の基本的な考え方

1. 計画策定の目的 4
2. 計画策定の基本方針 4
 - (1) 家庭・地域・学校等で子どもが読書に親しむ機会の提供と充実
 - (2) 子どもの読書活動を推進するための環境の整備・充実
 - (3) 子どもの読書活動に関する啓発・広報の推進
 - (4) 子どもが読書に親しむための支援体制の整備
3. 計画の期間 5

第3章 羽生市子ども読書活動推進のための具体的な施策

1. 家庭における読書活動 6
 - (1) 現状と課題
 - (2) 目標
 - (3) 具体的な施策
 - ① 読書する機会の提供と体制の充実
 - ② 家庭での読書時間の確保
 - ③ 家庭読書支援体制の充実
 - ④ 子どもの年齢にあわせた読書活動の推進
2. 幼稚園・保育園（所）における読書活動 7
 - (1) 現状と課題
 - (2) 目標
 - (3) 具体的な施策
 - ① 読書環境の整備

② 教諭・保育士の研修の充実	
③ 保護者への読書活動の啓発	
3. 学校における読書活動	9
(1) 現状と課題	
(2) 目標	
(3) 具体的な施策	
① 読書習慣の確立と指導の充実	
② 学校図書館の整備と充実	
③ 教職員の研修の充実	
④ 保護者への啓発（各種たよりの活用）	
⑤ 学校図書館ボランティア等との協力	
⑥ 市立図書館、学校間の提携と協力	
⑦ 障がいのある子どもへの読書支援	
4. 市立図書館における読書活動	14
(1) 現状と課題	
(2) 目標	
(3) 具体的な施策	
① 子ども向け資料等の充実・整備	
② 児童サービスの充実	
③ 図書館利用の啓発・広報	
④ 専門的職員（司書）の育成	
⑤ 他機関との連携・支援	
⑥ 障がいのある子どもへの読書支援	
5. 地域社会における読書活動	17
(1) 現状と課題	
(2) 目標	
(3) 具体的な施策	
① 公民館図書室の活用・おはなし会などの充実	
② 地域社会の力を活用した読書活動の推進	
③ ボランティアグループの養成と学校支援の推進	

第4章 施策の効果的な推進に向けて

1. 連携・協力体制の推進.....	21
--------------------	----

2. 計画の進捗状況の確認等.....	2 1
3. 啓発・広報の推進.....	2 1

【 資 料 編 】

1. アンケート調査の集計結果.....	1
(1) 保育所を利用している乳幼児の保護者へのアンケート調査結果	
(2) 児童・生徒へのアンケート調査結果	
2. 羽生市子ども読書活動推進計画策定委員名簿.....	2 6
3. 羽生市子ども読書活動推進計画策定経過.....	2 7



第1章 計画策定の背景

1. 子どもの読書活動の現状

(1) 日本の子どもの現状

近年、テレビやインターネット、携帯電話等の情報メディアの発達などにより、生活環境は大きく変化し、子どもの「活字離れ」が指摘されています。

また、乳幼児期の言葉かけや読書の必要性を感じている家庭は多いのですが、全国の読書活動の調査によりますと、1ヶ月にまったく読書をしない子どもの割合は別表1のとおりとなっており、学年が進行するにつれ読書離れが進んでいることが分かります。

しかし、まったく読書をしない子どもの割合は減少しており、国や各自治体による読書活動推進計画や小・中学校における「一斉読書」の普及が、減少の要因と考えられます。

別表1 1ヶ月まったく読書をしない子どもの割合

	平成21年度	平成16年度	平成11年度
小学生	5.4%	7.0%	11.2%
中学生	13.2%	18.8%	48.0%
高校生	47.0%	42.6%	62.3%

出典（第55回学校読書調査 平成21年5月）

(2) 羽生市の子どもの現状

本計画作成のため、羽生市内の小・中学生及び保育所に通う乳幼児の保護者に対して平成21年10月に読書に関するアンケートを実施しました。その結果、保育所や学校においては、保育士、ボランティアによる読み聞かせ、本の貸出、一斉読書の時間を確保するなど、工夫した読書活動が行われていることがわかりました。これは、学校図書ボランティアの育成や司書教諭の配置など、市の取組による成果でもあります。

しかし、読む本の冊数を見ますと、小中学生では月に1～2冊という子どもが34.4%と一番多く、全く読まない子も6.8%います。また、よく本を読む場所として、生活の場である家庭ではなく図書館を挙げた子が7.2%であること、

多くの種類の本が揃い読みたい本が容易に見つかるであろう図書館へ1年間に1度も行ったことがない子どもが27.1%であることを見ますと、地域や家庭での読書活動推進の不十分さがうかがえます。

2. 子どもの読書活動の意義

「子どもの読書活動の推進に関する法律」第2条（基本理念）には、「子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で、欠くことのできないものである」と謳っています。まさに読書は、子どもたちの知的成長、精神的成長に大きな役割を果たしています。この年代の読書は、子どもたちが大人になり、より豊かな人生を送るために必要なものであると考えています。

3. 国・県の動向

(1) 国の動向

平成11年8月、読書の持つ大きな価値を認識し、子どもの読書活動を国を挙げて支援するため、平成12年を「子ども読書年」とすることが衆参両院で決議されました。さらに、平成13年12月には「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行され、読書環境の整備や読書活動の推進は国や地方自治体の責務であることが明記されました。

この法律は子どもの読書活動の推進に関して第2条で基本理念を示し、この基本理念をもとに、国及び地方公共団体は「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定し、読書活動の推進を積極的に図ることとなりました。

そのため国は、平成14年8月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第一次計画）」を策定し、平成14年度からおおむね5年間にわたる国の施策を示しました。その内容は、「家庭・地域・学校を通じた読書に親しむ機会の提供」、「図書資料の整備など諸条件の充実」、「学校・図書館・関係機関等の連携・協力の推進」、「社会的気運醸成のための啓発」から構成されています。

その後、第一次計画における取組・成果・課題を踏まえ、平成20年3月に第二次計画を策定し、読書活動を推進しています。改定のポイントは、次のとおりです。

- ・主要政策の数値目標化
 - 市町村の計画策定率 24%→50%以上
 - 公立図書館のホームページ開設率 56%→90%以上
 - 図書館ボランティア 7万人→10万人以上
- ・第一次基本計画における成果と課題等を整理
 - 司書教諭の未発令校への発令促進
 - 図書館司書の養成、研修の充実
- ・国、地方公共団体、関係機関等の連携体制を強化
- ・家庭・地域・学校を取組を再構成
 - 社会全体で読書環境の整備
 - 家庭における読み聞かせ
 - 児童・生徒の教室の図書環境整備

(2) 埼玉県の動向

埼玉県は、平成10年度より「彩の国5つのふれあい運動」の一つとして「本のふれあい」を掲げ、子どもの読書環境の意義・重要性について幅広く普及・啓発に努めました。また、平成14年度から「彩の国教育改革会議」の提言のもと、「彩の国教育改革アクションプラン」が策定され、読書によって言葉の力を養うことを目指した県を挙げての読書運動の推進に取り組みました。

「子どもの読書活動の推進に関する法律」の第9条が、都道府県や市町村にも「子ども読書活動推進計画」を策定するよう努めることを明記していることから、埼玉県は平成16年3月に「埼玉県子ども読書活動推進計画」を策定しました。

その後、この計画に基づいた平成17年度から平成21年度における成果と課題等を整理し、新たに平成22年度から5年間の計画を定め、推進体制や環境の整備等について施策の方向を示しています。



第2章 羽生市子ども読書活動推進計画の基本的な考え方

1. 計画策定の目的

羽生市では、従来様々な場所において子ども※1の読書活動が行われてきました。

しかし、「子どもの読書活動推進に関する法律」の基本理念の中で示されている自主的に読書活動が行えるような機会と場所の整備については、現状やアンケートの回答内容などから判断しても十分とはいえません。また、全市的に取り組むことや、乳幼児期から児童・生徒期へと継続した長期的な読書習慣を確立していくことも大きな課題です。

このため、子どもが本と親しみ、生きる力と創造力と豊かな心を培うために、読書の楽しさを伝え、本に出会える機会を確保します。そのための環境を整備することを目的として「羽生市子ども読書活動推進計画」を策定します。

2. 計画策定の基本方針

本計画の基本方針を次に挙げ、全市的に読書活動を推進します。

(1) 家庭・地域・学校等※2で、子どもが読書に親しむ機会の提供と充実

子どもの自主的な読書活動を推進するにあたり、まず、家庭・地域・学校等のそれぞれが担うべき役割があります。その役割を理解し、子どもたちの年齢に合わせて、大人たちが読み聞かせを行う、読書をする姿勢を示す等が必要となってきます。

子どもたちが、家庭・地域・学校等において、本に出会う機会、本と触れあう機会を増やし、子どもが進んで読書を行い、生涯にわたる読書習慣を身につけることができるよう、その読書活動を広げ、読書体験を深める機会を増やすことなどが重要です。

市では、各部局の連携だけでなく、学校・図書館等の関係機関、民間団体等が相互の協力を図り、子どもが読書に親しむ機会を提供するよう努めていきます。

※1 子ども

本計画でいう子どもは、基本とする国や県の推進計画での定義と同じく18歳以下の者とする。

※2 学校等

保育園・所、幼稚園を含む。以下「学校等」という場合は同様とする。

(2) 子どもの読書活動を推進するための環境の整備・充実

子どもの読書活動を推進するためには、子どもたちの周りにいつも本があること、しかも、子どもの発達段階に応じて、子どもが興味を持ち、感動する本であることが重要です。

このために、市立図書館や学校図書館、公民館図書室等の施設が果たす役割は大きく、それぞれの機能を十分発揮させるため、図書資料の充実、人材の確保と育成に努めます。

(3) 子どもの読書活動に関する啓発・広報の推進

子どもの読書活動を推進していくためには、その意義や重要性について、市民の間に広く理解と関心を深める必要があります。

市全体に読書活動を推進する機運を高めるとともに、特に、子どもと直接かかわる保護者、教職員、保育士等が読書活動に理解と関心を持つことが、子どもに自主的な読書習慣を身につけさせる上で重要です。

そのため、市では、各種研修会や市広報、ホームページ、パンフレットの配布等を通じて読書活動の意義や重要性について伝えていくとともに、優良な図書の紹介や普及等についても広く啓発・広報をしていきます。

(4) 子どもが読書に親しむための支援体制の整備

子どもの読書活動を総合的に推進するためには、家庭・地域・学校等、その他関係する機関が協力し連携をして支援体制を構築していく必要があります。

市では、具体的な方策についての検討や情報交換等を行うとともに、総合的な推進体制を整備するよう努めます。

3. 計画の期間

平成23年度から平成27年度までの5年間とします。



第3章 羽生市子ども読書活動推進のための具体的な施策

1. 家庭における読書活動

(1) 現状と課題

子どもにとって、親からの本の読み聞かせは乳幼児期の言葉の体験となり、家族の温かい語りかけは豊かな心を育み、言語能力・コミュニケーション能力を育てる有効な手段となるものです。そのために、家族で一緒に本を読むなど、楽しい読書環境をつくっていくことが必要です。

市が平成21年10月に実施した家庭での子ども読書アンケートのうち、保育所に通っている子どもの保護者を対象としたものでは、子どもに読み聞かせをしたことがある保護者の割合が99.1%に達していました。このことから、乳幼児期の「読み聞かせ」の大切さを十分認識していることがうかがえます。また、同じアンケートで、小中学生では74.8%の子どもたちが家庭で本を読んでいると答えています。多くの子どもたちにとっては本が身近な存在となっていることがわかりますが、一方で、家庭で本を読まない子どもたちに読書の楽しさ、大切さを伝えていくことが大きな課題となっています。

また、市ではブックスタート事業※3を平成16年12月から実施しています。この事業を定着させ、発達段階に応じた図書情報の提供、相談体制の充実を図っていく必要があります。

(2) 目標

目標項目	平成21年度	平成27年度
週1回以上本を読み聞かせする (未就学児)	75.0%	85%
自宅で本を読む習慣をつける (小・中学生)	74.8%	77%
1ヶ月間に5冊以上本を読む (小・中学生)	31.5%	44%

出典（羽生市子ども読書活動推進計画調査 平成21年10月）

※3 ブックスタート事業

子どもと保護者が絵本を開く楽しい体験とともに、子どもに絵本を手渡す活動。市では、毎月保健センターで実施している10ヶ月児健診の際に行っている。

(3) 具体的な施策

①読書する機会の提供と体制の充実

- ・保護者が育児の中に読書活動を取り入れられるように「おはなし会」や「ちいさなおはなし会」※4の中で読書の大切さを伝えていきます。
- ・子どもが本に出会い、保護者と本を通じて触れあう機会をつくるために10ヶ月児の健診時に行っているブックスタート事業を充実させていきます。
- ・健診等で保健センターを乳幼児が利用する際に絵本コーナーを設置し、絵本と触れ合う環境を提供していきます。

②家庭での読書時間の確保

- ・読書の習慣づけを図るため、行政等が実施する子育て支援活動や乳幼児の健診の機会、また学校だよりなどを通して、保護者が読み聞かせをする、子どもと一緒に本を読む等、子どもが家庭で本に親しむ時間を持つように働きかけます。

③家庭読書支援体制の充実

- ・子どもやその保護者が家庭での読書を行うにあたって、市立図書館の利用が気軽に行われるような啓発・広報に努めます。
- ・職員が保護者や子どもの読書相談に気軽に応じられる体制を整えるとともに、本のリストの作成、配布によって本の選択をやすくします。
- ・保護者の意見を取り入れた企画によって、魅力ある図書館にするよう努めます。

④子どもの年齢にあわせた読書活動の推進

- ・学校等の関係機関が連携し、各年齢期に応じた読書の習慣づけや読書に対する興味・関心を引き出すことができる環境づくりを進めます。また、高校生には、主体的な読書活動の実践を促すことにより読書活動の幅を広げていくよう努めます。

2. 幼稚園・保育園（所）における読書活動

(1) 現状と課題

市内の幼稚園や保育園（所）では、心豊かな子どもの成長を願い、毎日の暮らしや季節、そのときどきの興味や関心に合わせ、絵本の読み聞かせを行っています。

幼稚園・保育園（所）での読書活動においては、読み聞かせの実施率は100%

※4「おはなし会」「ちいさなおはなし会」

「おはなし会」は幼児・小学生を対象とし毎月第2土曜日に、「ちいさなおはなし会」は未就学児とその保護者を対象とし毎月第1・3金曜日に市立図書館で実施。（平成23年度）

でした。このことから、身近に絵本に親しむ機会があることがうかがえます。しかし、園（所）によって蔵書数や図書スペースなどに違いがあり、各園（所）の実情に合った工夫が求められます。

また、読み手が、子どもたちに絵本の世界に興味を持たせるための工夫を凝らしていくことや、良い絵本を選ぶ確かな目を養っていくなど、さらなる充実が求められています。絵本の楽しさ、素晴らしさを子どもだけではなく保護者にも伝え、読書活動の重要性をアピールしていくことや、家庭と幼稚園・保育園（所）の双方で、子どもが本に親しむ活動をするための時間や場の設定など、工夫した取組が必要です。



(保育園の図書コーナー)



(読書に親しむ園児)

(2) 目標

目標項目	平成21年度	平成27年度
教室・保育室内の図書コーナー設置率(注1)	幼稚園・保育園(所) 100.0%	幼稚園・保育園(所) 100%
教諭・保育士の読書活動推進に向けた研修への参加率(注1)	20.0%	50%
家庭での読み聞かせ率(注2)	幼稚園・保育園(所) 99.1%	幼稚園・保育園(所) 100%

出典 注1 (生涯学習課サンプル調査 平成22年3月)

注2 (羽生市子ども読書活動推進計画調査 平成21年10月)

(3) 具体的な施策

①読書環境の整備

- ・絵本の種類や量を増やして図書資料を充実させるとともに、限られた環境の中で子どもたちが身近に絵本と親しむ時間を持つことができるよう、教室・保育室内に、子どもたちが手に取りたくなるような興味をそそられる本が常に置かれている環境になることを目指します。
- ・遊びに用いる絵本の充実や絵本に興味を持つきっかけとなる教材の利用、家庭への本の貸出など、読書環境を工夫して整備するように努めます。

②教諭・保育士の研修の充実

- ・読書指導の重要性、個性や発達段階に応じた適切な図書資料の与え方などを学ぶために、園（所）の職員の研修会参加や専門講師を招いての講習会を開きます。
- ・絵本の良さを知り、読み聞かせをより楽しく行うことができるよう、読み聞かせ講習会などを開催することにより、職員の資質の向上に努めます。

③保護者への読書活動の啓発

- ・読み聞かせの心地良さを体感してもらうため、保護者が集まった時等に、絵本の読み聞かせの機会をつくるよう努めます。
- ・園だより等で、絵本の紹介や園（所）での絵本との楽しい関わりの様子を知らせていきます。
- ・読書を通して親子がより温かく心が通う関係を築いていくことができるように、家庭における読書活動を啓発します。

3. 学校における読書活動

(1) 現状と課題

羽生市内の学校では、子どもの豊かな情操を養い、確かな学力をはぐくむことを願い、読書活動に力を入れています。

羽生市内の小・中学校においては、司書教諭が14校中11校（平成22年度）に配置され、子どもたちが利用しやすく、本に関して相談することができる温かく開かれた学校図書館となっています。実際には、子どもたちが読書や調べ学習などで学校図書館を気軽に利用できるよう、掲示物や図書コーナーを工夫したり、子どもたちの読書意欲を喚起するよう、読み聞かせや全校一斉読書などのさまざまな取組を実践しています。また、図書資料については、古くなり読めなくなった本を廃棄し新しい本を購入することで、蔵書の質を向上させています。

このように、学校図書館はより利用しやすくなっていますが、以下の4点の課題もあげられます。

- ① 子どもの読書習慣づくりを進め、学校図書館を活用していく上で、教職員の協力は不可欠です。校内研修などを通して読書指導の重要性や学校図書館の役割、利用の仕方について、教職員全体の共通理解を図ることが大切です。

現在、すべての小中学校で朝読書等の一斉読書が行われており、今回のアンケート結果では、これをきっかけとして読書をする時間や回数が増えたという回答が6割に達しています。しかし、本を熱心に読む子どもとそうでない子どもの格差は、年齢が進むにしたがって開いてきています。朝読書の取組も、その時だけの読書になってしまい、生活の中に浸透していない子どもたちもいます。

子どもの自発的、主体的な読書へと発展させていき、全校体制として、学校生活の中で読書の良さを感じ、味わう場面をより多く設定していくことが求められています。

- ② 学校図書館での貸出が話題作・ベストセラーなど読みやすい本に偏る傾向が見られます。図書の幅を広げることにより子どもたちは様々な本を読むことができ、その中で心に残る本に出会い、さらに読書への思いが深まっていくものです。優良図書の紹介や読み聞かせなどで、子どもたちの興味をいっそう広げていく必要があります。
- ③ 市内小・中学校の学校図書館図書標準※5 達成率は、小学校101.8%、中学校97.0%（平成21年度）となっており、中学校では、基準に達していません。子どもたちに、より魅力のある本を提供していくために、これからの整備、充実が求められます。
- ④ 子どもの読書活動を推進していくには、保護者への情報提供をさらに充実させ、学校と家庭が連携した読書指導を積極的に進めていかなければなりません。学校単独での読書活動の推進は限界もあり、効率的ではないため、今後、家庭及び地域との連携をどう深めていくかが課題となっています。

※5 学校図書館図書標準

公立の義務教育諸学校において、学校図書館の図書の整備を図る際の目標として設定されたもの。（平成5.3.29文初小209号 各都道府県教育委員会教育長あて文部省初等中等教育長通知）

（目標蔵書冊数例）

学級数	3学級	6学級	9学級	12学級	15学級	18学級	21学級	24学級
小学校	3,520	5,080	6,520	7,960	9,160	10,360	10,960	11,560
中学校	5,440	7,360	9,040	10,720	12,160	13,600	14,560	15,520



(小学校図書館)



(中学校図書館)

(2) 目標

目標項目	平成21年度		平成27年度	
朝読書、読み聞かせ等全校一斉の読書活動を実施している学校数の割合(注1)	小学校	100.0%	小学校	100%
	中学校	100.0%	中学校	100%
本を読むのが好きな児童生徒の割合(注1)	小学校	81.1%	小学校	89%
	中学校	79.7%	中学校	87%
図書標準達成率(注2)	小学校	101.8%	小学校	130%
	中学校	97.0%	中学校	105%

出典 注1 (羽生市子ども読書活動推進計画調査 平成21年10月)

注2 (教育委員会教育総務課調査 平成22年5月)

(3) 具体的な施策

①読書習慣の確立と指導の充実

- ・司書教諭※6、図書主任、学校図書館司書、教職員、児童・生徒図書委員会、学校図書館ボランティア等の連携を深め、読書週間の取組や、ブックトーク、アニメーション※7、学校図書館だよりの発行、必読図書や推薦図書の選定など、

※6 司書教諭

学校図書館法第5条の規定に基づく学校図書館の専門的職務に当たる職員で、教諭をもって充てる。平成15年度学校図書館法の一部改正により、12学級以上の学校には必要となった。

※7 アニメーション

子どもたちに読書の楽しさを伝え、子どもが生まれながらに持っている読む力を引き出そうと開発・体系化した読書指導のひとつ。

各学校における読書活動推進の取組を工夫し、子どもの主体的な読書習慣の確立に努めます。

- ・調べ学習等で子どもが学校図書館を利用する際には、教職員と司書教諭、学校図書館司書が事前の打ち合わせや情報交換等連携を密にし、児童・生徒の実態や学習内容に即した学習支援を行えるよう学校図書館の充実に努めます。

②学校図書館の整備と充実

- ・学校図書館の資料については、より一層の冊数増に努めます。
- ・蔵書冊数だけを目標とするのではなく、利用されない古い本の廃棄と合わせ、子どもにとって魅力的で豊かな心を育む蔵書を充実させていきます。
- ・図書の受入や貸出・管理がより円滑に行われ、校内での図書検索が容易にできるような機器の導入やシステムの構築について、子どもにとって便利な学校図書館になるように検討していきます。
- ・各学校においては、余裕教室や空きスペースなどの有効活用や、掲示、机の配置などの工夫により、限られた施設・設備を生かして、読書スペースの整備・充実に努めます。
- ・司書教諭、図書主任、学校図書館司書を中心に、書架の配置や季節感あふれる掲示、子どもの学習に合わせた図書コーナーづくりなど、使いやすく、身近で心和む学校図書館づくりをすすめます。その際、図書委員会や学校図書館ボランティアの協力を求めています。

③教職員の研修の充実

- ・学校図書館を計画的に利用して、その機能の活用を図り、子どもの主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実させていくためには、子どもの発達段階に応じた読書活動計画やきめ細やかな体制づくりが重要となります。そのため、司書教諭、図書主任、学校図書館司書の職務、学校図書館の活用方法などの研修を行い、教職員への啓発と協力体制を促進し、全教職員が連携を取り合いながら読書指導に取り組める学校体制づくりに努めます。
- ・教職員自らが読書のよさ、重要性を認識していくことも大切です。一斉読書の時間には教職員も子どもとともに読書するよう努めます。
- ・教科、道徳等、総合的な学習の時間における読書指導や学校図書館活用のための年間指導計画を作成し、計画的で組織的な指導のもとで、子どもの読書力や情報活用能力の育成に努めます。

④保護者への啓発（各種たよりの活用）

- ・本好きな子どもを育てるには、家庭における読書環境が大切です。図書館だよりや学級・学年・学校だよりを通じて、読書の意義や楽しさを訴え、学校における子どもたちの読書活動の様子も詳細に知らせるなど、保護者へ読書活動の啓発をしていきます。

- ・読書週間や読書月間には、家族で一緒に本を読んだり、保護者が子どもに読み聞かせをしたりする家族読書や親子読書などを進め、家庭を巻き込んだ読書活動が行われるよう努めます。

- ・授業参観や学校行事においても、図書資料を活用した各教科・領域や総合的な学習の時間の授業を公開したり、学級・学年の読書活動を公開したりしながら、本との関わりで生まれた成果を、一人一人の子どもの姿で伝えられるように努めます。

- ・PTA活動として、読書のよさをアピールする等保護者に読書活動の推進を呼びかけていきます。

⑤学校図書館ボランティア等との協力

- ・開かれた学校づくりが進む中、読書活動を支える学校図書館ボランティア等との協力を一層充実させます。

- ・学校図書館ボランティアによる読み聞かせなどを定期的に行うことを通し、子どもたちは本の世界に浸る喜びや楽しさを存分に味わうことができます。今後も学校図書館ボランティア等との連携を深め、子どもの読書意欲を高める読み聞かせなどの推進に努めます。

- ・子どもたちが学校図書館に行きたくなるよう、季節や読書イベントに合った魅力ある掲示やチラシづくりを、学校図書館ボランティア等の協力を得て積極的に進めます。また、新着本の受け入れや図書の修理・整理等においても協力を依頼し、学校図書館の活性化を図り、読書環境が効率よく整えられるよう努めます。

⑥市立図書館、学校間の連携と協力

- ・学校での調べ学習・読書指導などを円滑に進めるため、各学校では図書利用の年間計画を市立図書館に提示し、相互協力を図ります。

- ・資料や絵本など、市立図書館からの協力貸出を積極的に活用し、学校での調べ学習や読み聞かせなどの読書活動の推進に努めます。

- ・研修会においては、市立図書館の職員から図書管理についての技術を学ぶ機会を設けたり、市立図書館と合同研修会や連絡会を開いたりすることで、専門的技能の向上や情報交換を図ります。

⑦障がいのある子どもへの読書支援

- ・障がいや発達段階に応じた読書指導が進められるように、特別支援学級の担任、司書教諭、学校図書館司書が読書指導や図書館活用などについて研修を深める機会を設けていきます。

- ・授業や諸活動の中で、子どもたちが読書活動の体験ができるように、積極的に本とかかわることのできる場の設定に努めます。

- ・障がいのある子どもが本に親しみ、読書活動の楽しさを体験することが

- ・障がいのある子どもが本に親しみ、読書活動の楽しさを体験することができるようにするためには、学校図書館だけでなく、教室や廊下等にも図書コーナーを設置していくことも大切です。それらの図書コーナーでは、障がいや発達段階に応じた、絵本・録音図書などの資料も充実させるよう努めます。
- ・子どもたちが落ち着いて読書に集中できるように、現在の設備を生かしながら書架の高さや位置を見直すなど工夫して、使いやすい読書スペースの整備に努めます。
- ・読み聞かせや朝読書については、読み聞かせボランティアや学校図書館ボランティアとの連携を深めていきます。

4. 市立図書館における読書活動

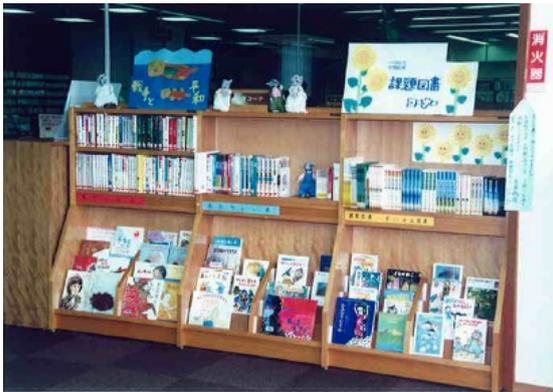
(1) 現状と課題

羽生市の図書館設置状況は、平成22年4月現在、1館となっています。

蔵書総数（雑誌含む）は170,004冊であり、そのうち児童書53,740冊で総数の31.6%です。貸出にみる利用状況は、全体で貸出人数63,513人、貸出冊数246,663冊の利用実績となっています。平成21年3月31日現在の小学生以下（0歳～12歳）への貸出冊数は37,641冊で全体の15.2%です。中学生（13歳～15歳）への貸出は5,897冊で、全体の2.39%でした。

しかし、距離が遠いことや、クラブ活動や学習塾などで時間がないなどの理由から、図書館をほとんど利用したことがない子どもも相当数おり、現段階では日常的に図書館サービスを受けられる環境が十分整っているとは言えません。さらに、幼稚園・保育園（所）に通う乳幼児の保護者のうち、図書館等を利用する人の割合が2人に1人であるという実態を踏まえ、利用を促すための更なる広報活動や家庭での読書を支援する体制をつくっていく必要もあります。

また、読書活動を推進していく上では家庭での読書活動の習慣化が大変重要であるため、図書館で子どもや保護者に図書資料の利用を促し気軽に読書相談を受けるなど、家庭での読書につながるよう支援をしていくこと、読書活動を支える各種団体（幼稚園・保育園(所)・学校等の機関、ボランティア団体など）に対しては、資料の協力貸出、職員の派遣等、支援についてのあり方を検討し推進していくこと、サービスを支える側の職員については、研修等により児童図書の専門的知識や能力を持った職員を養成していくことが必要となっています。



(市立図書館 児童書コーナー)



(ボランティアによる活動)

(2) 目標

目標項目	平成21年度	平成27年度
児童書蔵書冊数	53,740冊	55,000冊
児童書貸出冊数	81,278冊	82,000冊
協力貸出の利用団体数 (年間延数)	143団体	150団体
おはなし会の参加人数	976人	1,000人
開催回数	37回	37回

出典 (羽生市立図書館調査 平成22年4月)

(3) 具体的な施策

①子ども向け資料等の充実・整備

- ・子どもの興味・関心や知りたい欲求に応えられる魅力ある本を提供することが求められており、資料の購入による整備、充実に努めます。
- ・調べ学習・総合的な学習の時間に対応できる図書資料や、地域のことを理解してもらうために子ども向けにわかりやすく作成した羽生市立図書館作成の「子ども郷土資料※8」の充実に努めます。
- ・読書離れが著しい中・高校生を対象としたヤングアダルト図書の充実に努めます。
- ・乳幼児が楽しめる絵本等の充実に努めます。
- ・利用を促進するため、子どもとその保護者に利用しやすい館内図書の配置を考え、工夫を凝らした展示や掲示に努めます。

②児童サービスの充実

- ・図書館では、ボランティアの協力を得て、おはなし会やおたのしみ会をはじめ、子どもと本を結ぶ行事の開催を実施します。
- ・「子ども読書週間」に記念イベントをはじめとした行事を開催し、読書活動の重要性や家庭での親子で読書を楽しむ大切さについて伝えていくため、一層の推進を図ります。
- ・平成18年度から市立図書館と小学校が連携し、図書館職員による「ブックトーク※9」をはじめ、図書館育成のボランティアによる様々な事業を実施しています。今後も各小学校を訪問し、「ブックトーク」による読書意欲の喚起と、団体貸出の活用を推進します。
- ・開館日数や開館時間の維持・拡大に努めるなど、子どもの図書館利用の利便性を高めていきます。

③図書館利用の啓発・広報

- ・図書館では、読書の楽しみを啓発するために、年齢に合わせたブックリストを作成し、配布します。
- ・こどもの読書週間や秋の読書週間を中心に、さまざまな機会を捉えて啓発・広報活動を行っていきます。

※8 子ども郷土資料

市立図書館で、羽生の歴史や藍染め・ムジナモなど、地域に関わることや羽生にゆかりのある人物について、子ども向けにわかりやすく作成した資料。

※9 ブックトーク

子どもたちに、ある1つのテーマに沿って数冊の本を順序だてて紹介する、読書案内の方法のひとつ。

- ・リーフレットを定期的に作成し、興味・関心や教養を深めたりする図書の紹介及び読書情報の提供を、小・中学校、幼稚園及び保育園（所）に行っていきます。

- ・図書館のホームページ等で新鮮な情報を発信し、新刊本、新企画等の情報を紹介します。

④専門的職員（司書）の育成

- ・図書館職員は子どもの様々な読書相談、学習相談などに応えられるようにすることが求められています。長期的な視野にたって読書活動の推進を図るため、図書館司書を適正に配置し、司書の資質や能力の向上に努めます。

- ・読み聞かせの手法や的確な資料の提供及び読書に関する相談に応じられるよう、職員研修を充実させ、児童向けサービスの担当者の育成に努めます。

- ・児童担当者による子どもボランティアグループ育成に努めていきます。

⑤他機関との連携・支援

- ・児童向けサービスの経験を積んだ司書を育成することにより、学校等の機関の子どもの本の選書・収集に関する相談サービスや協力貸出・情報提供など、連携・支援に努めます。

⑥障がいのある子どもへの読書支援

- ・障がいを持つことにより特別な支援が必要な子どものために、施設整備面での配慮に努めます。

- ・障がいを持つ子どもは、他人とのコミュニケーションがとりにくいことがあります。読書活動を通して人と触れ合い、情緒が育まれることを期待し、必要な資料の収集、提供に努めます。

5. 地域社会における読書活動

(1) 現状と課題

子どもの読書活動を推進するには、身近なところに読書のできる環境を整備していくことが重要です。

地域の社会教育施設として公民館がほぼ小学校単位（11の小学区のうち9校区）に設置され、それぞれに図書室を設けてあり、市民が身近に本と接することのできる環境になっています。しかし、公民館の蔵書は、各館とも最新の本が少ないという現状があり、利用状況は、年度ごとの増減はありますが減少傾向を示しています。

また、家庭教育事業として幼児とその親を対象に、少年教育事業として小学校低学年を対象に、読み聞かせや紙芝居を実施している公民館もあります。

羽生市民プラザの地下1階に開設されている「なかよしクラブ（まんが図書館）※10」は、一般的な漫画本だけでなく学習漫画や一般図書も備え、また、卓球やドミノ遊びができることから、楽しみながら本に親しむ場として子どもたちに活用されています。

本計画を推進するためには、身近な環境の整備の他、子どもを取り巻く社会全体の環境にも目を配る必要があります。例えば、テレビやインターネットなどが子どもの読書時間を減らすという見方もありますが、テレビドラマや映画に感動して原作を手にとって読み、本の楽しさを知っていく子どももいます。現在の状況を的確に捉え、メディアをきっかけにして大人が本を読み、その楽しさを身をもって子どもに伝えることも必要です。

これからは、子どもを支える地域社会全体で読書活動の推進を図る必要があります。



(なかよしクラブ)



(公民館フロアの図書コーナー)

※10 なかよしクラブ（まんが図書館）

土曜日、日曜日、祝日、夏休み等の子ども達の安全且つ健全な場の提供を目的とし、市民プラザ地下に開設した。

(2) 目標

目標項目	平成21年度	平成27年度
ボランティアが本の貸出に協力する公民館数	9館	9館
公民館での親子が参加できるおはなし会等の実施館数	3館	9館
なかよしクラブ（まんが図書館）の充実	開催日数 年間170日	開催日数 年間180日
放課後子ども教室での読み聞かせ等の実施率	0%	100%

出典（教育委員会生涯学習課調査 平成22年3月）

(3) 具体的な施策

①公民館図書室の活用・おはなし会などの充実

- ・公民館図書室での、職員やボランティアによる子どもたちとの本の貸出を通じた触れ合い活動を推進していきます。また、ロビーに書棚を設置し図書を置く等、公民館来館者も気軽に本に触れられる環境をつくります。
- ・子育て支援講座の一つとして親子を対象とした参加型のおはなし会などを開催し、本の楽しさや魅力を伝える機会をつくり、公民館での読書活動を充実させていきます。

②地域社会の力を活用した読書活動の推進

- ・子どもの読書活動を推進するためには、子どもが健やかに育つ環境を社会全体で支えていく必要があります。そのために、地域からの支援やその活用を積極的に図っていきます。
- ・放課後子ども教室※11においては、学習活動の一環として、本の持つ楽しさ、面白さを実感できるように努めます。また、遊びを中心とした活動の中にも、誰もが本に親しめるように、本の読み聞かせなどを推進していきます。

③ボランティアグループの養成と学校支援の推進

- ・子どもの読書普及活動に係る団体やグループを対象に研修会や講演会を実施し、ボランティアが活動しやすい環境の整備をしていきます。

※11 放課後子ども教室

小学校の余裕教室等を活用して安全・安心な子どもたちの居場所を設け、地域の方々の参画を得て、勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進することを目的とする。羽生市では、2つの小学校区で実施。

- ・本の楽しさを伝えるため、読み聞かせボランティアグループによる小学校での読書の時間の活動を支援していきます。



第4章 施策の効果的な推進に向けて

1. 連携・協力体制の推進

- (1) 本計画の推進に当たっては、教育委員会をはじめ市関係部局が中心となって子どもの読書環境の整備・充実に努め、市民と協働し、一体となった取組を展開します。
- (2) 家庭や、幼稚園、保育園（所）、学校、図書館などでの取組を効果的に行うため、機関相互の連携を深め、子どもの読書活動推進に関わる情報の交換に努めます。中でも子ども読書活動の推進に大きな役割が期待される学校と図書館にあつては、知識と技術を有する専門的な職員が配置され、日常的に図書資料が整備されていることが重要・不可欠です。そのために、司書教諭、学校図書館司書及び図書館司書相互の緊密な連携を図ります。
- (3) 子ども読書活動の推進の担い手となる関係職員の研修体制を充実させるとともに、読書ボランティア等との交流・連携を深めます。

2. 計画の進捗状況の確認等

本計画を実効性のあるものとするため、教育委員会において計画の進捗状況を確認し、評価と改善を行います。必要に応じ、本計画の総合的かつ継続的な推進を図る組織として、「(仮称)羽生市子ども読書活動推進協議会」の設置を検討します。

3. 啓発・広報の推進

- (1) 本計画の周知を図るとともに、子どもの読書活動に対する保護者の理解を促すため、リーフレット等の作成、配布を行い、全市的な啓発活動を進めます。
- (2) 「子ども読書の日（4月23日）」や「こどもの読書週間（4月23日～5月12日）」の趣旨を踏まえ、講演会などそれにふさわしい事業の実施に努めるなど、関係機関や関係団体との連携を図りながら、子どもの読書活動の重要性を理解するとともに関心を高めるよう効果的な啓発・広報活動を展開します。
- (3) 子ども読書活動に関する関連情報の収集を積極的に行い、市広報紙やホームページを活用し、市民に新しい情報を広くかつ迅速に提供します。
- (4) 子どもたちがたくさんの良い本と出会える環境づくりとして、店頭での児童書コーナーの充実等市内の書店にも協力を依頼します。

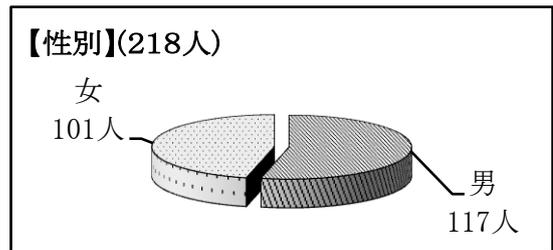
【 資 料 編 】

1. アンケート調査の集計結果

(1) 保育所を利用している乳幼児の保護者へのアンケート調査結果

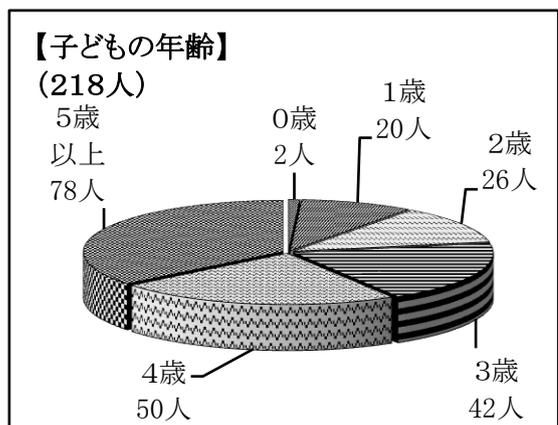
問1 性別

	回答数	構成比
男	117	53.7%
女	101	46.3%
無回答	0	0.0%
計	218	100.0%



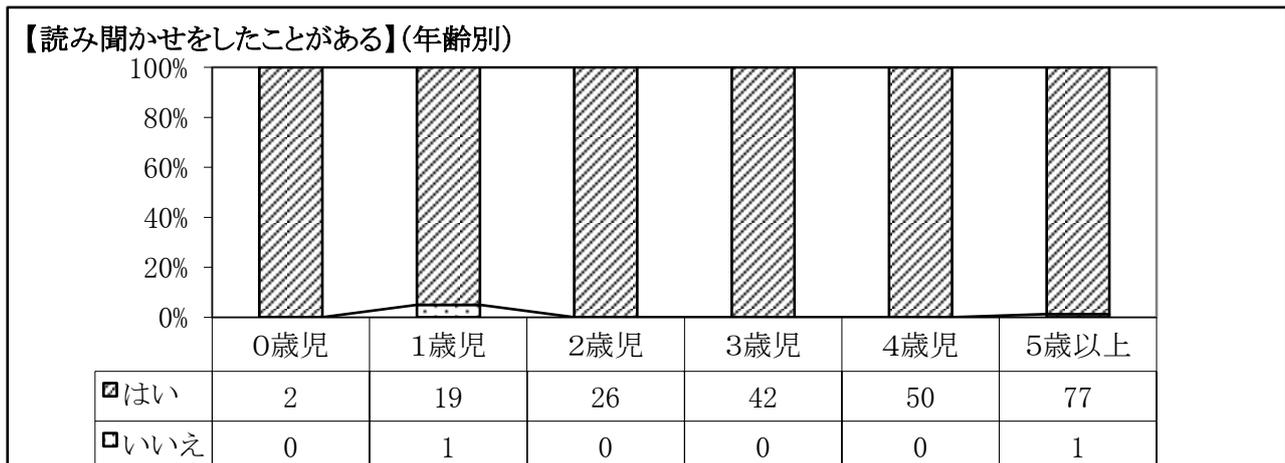
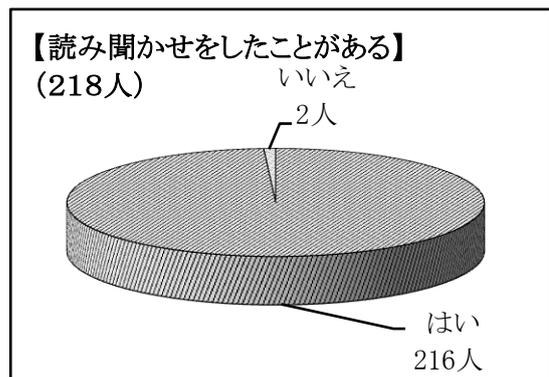
問2 子どもの年齢

	回答数	構成比
0歳	2	0.9%
1歳	20	9.2%
2歳	26	11.9%
3歳	42	19.3%
4歳	50	22.9%
5歳以上	78	35.8%
無回答	0	0.0%
計	218	100.0%



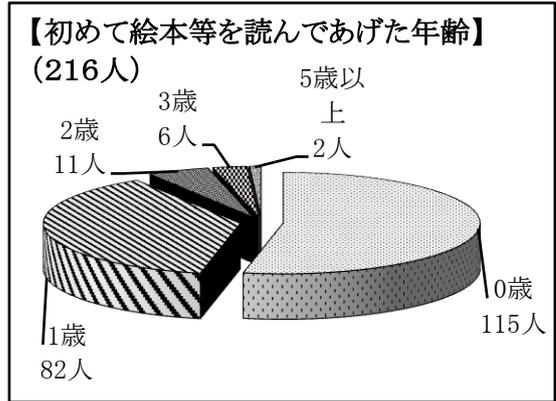
問3 ご家庭でお子様に絵本等を読んであげた(読み聞かせをした)ことがありますか。

	回答数	構成比
(1) はい	216	99.1%
(2) いいえ	2	0.9%
無回答	0	0.0%
計	218	100.0%

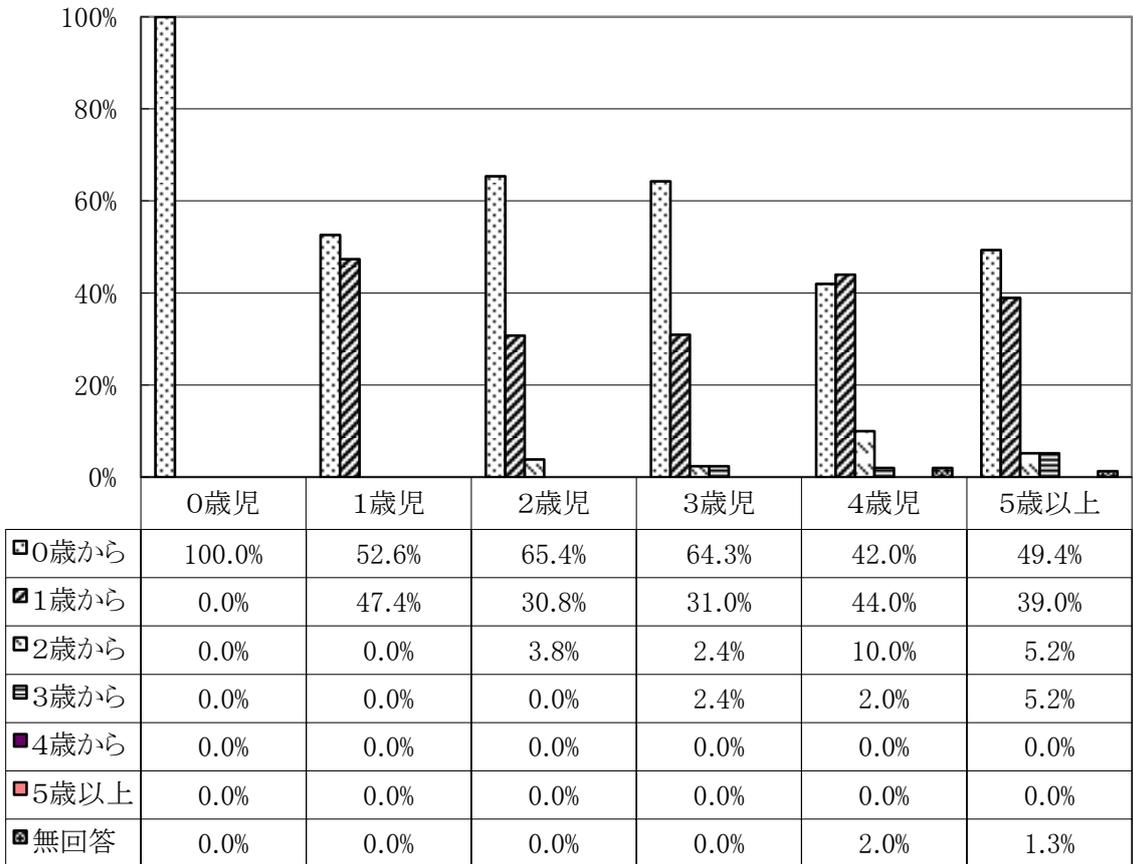


問4 初めて絵本等を読んであげたのは、お子さんが何歳くらいのときですか。

	回答数	構成比
(1) 0歳	115	53.2%
(2) 1歳	82	38.0%
(3) 2歳	11	5.1%
(4) 3歳	6	2.8%
(5) 4歳	0	0.0%
(6) 5歳以上	0	0.0%
無回答	2	0.9%
計	216	100.0%

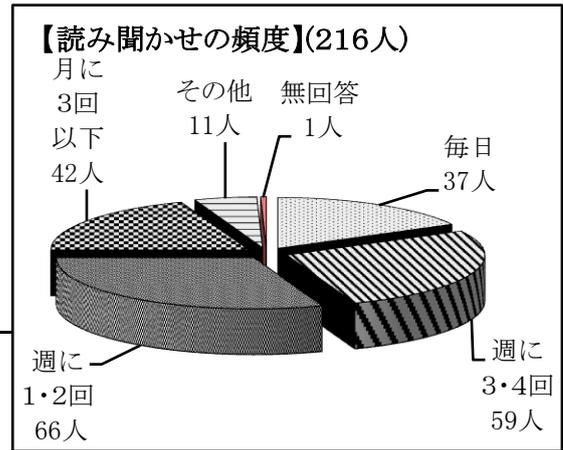


【初めて絵本等を読んであげた年齢】(子どもの年齢別)

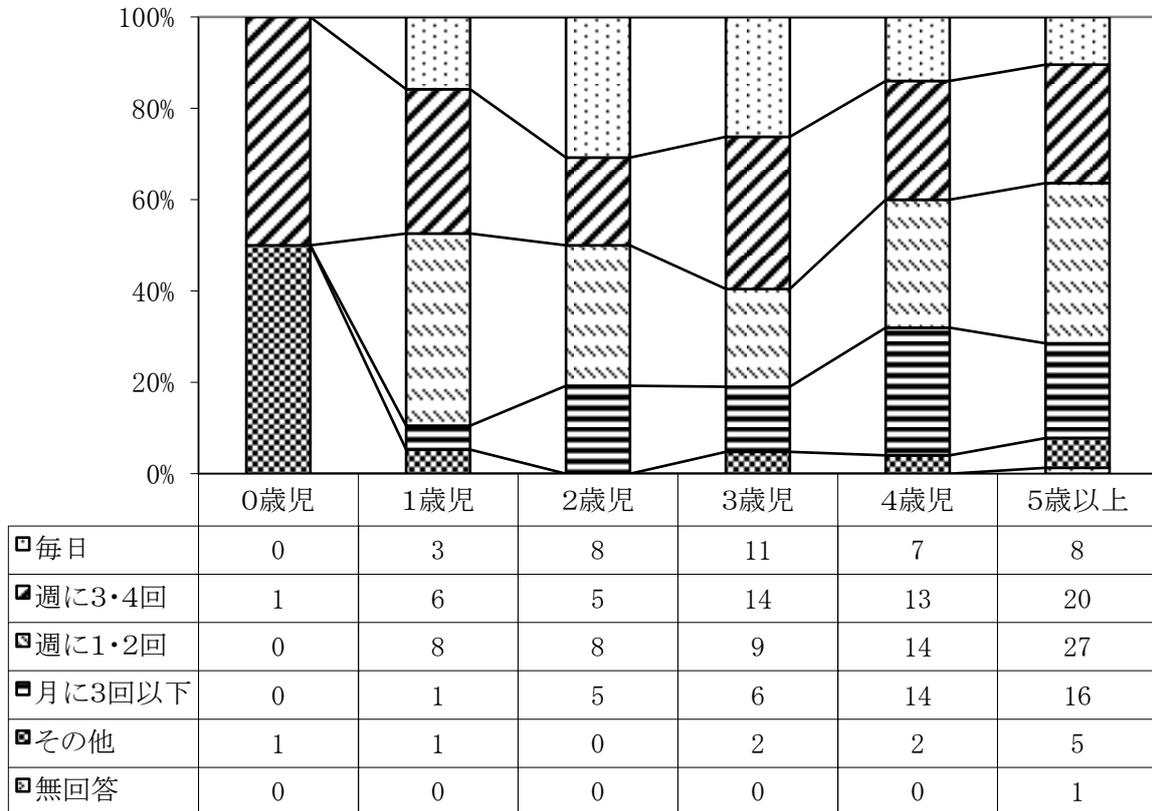


問5 どのくらいの頻度で、読んであげていますか。

	回答数	構成比
(1) 毎日	37	17.1%
(2) 週に3・4回	59	27.3%
(3) 週に1・2回	66	30.6%
(4) 月に3回以下	42	19.4%
(5) その他	11	5.1%
無回答	1	0.5%
計	216	100.0%

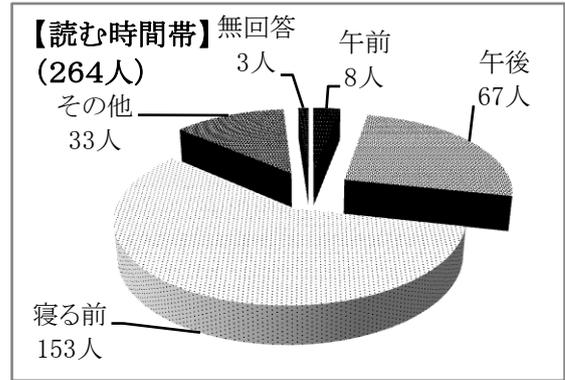


【読み聞かせの頻度】(年齢別)

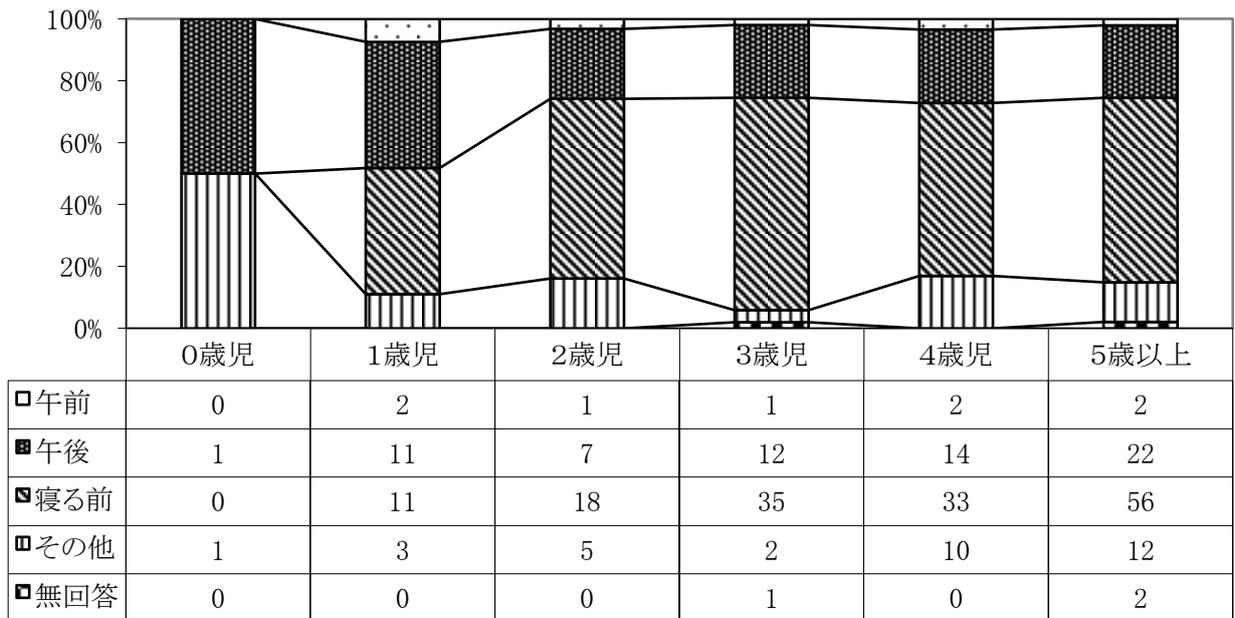


問6 一日の中でどの時間帯に、読んであげていますか。

	回答数	構成比
(1) 午前	8	3.0%
(2) 午後	67	25.4%
(3) 寝る前	153	58.0%
(4) その他	33	12.5%
無回答	3	1.1%
計	264	100.0%

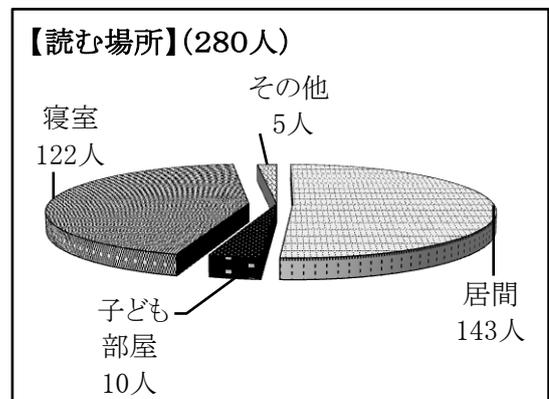


【読む時間帯】(年齢別)



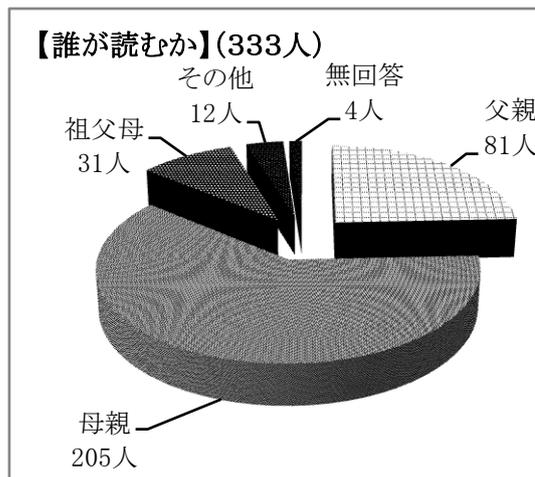
問7 どこで読みますか。

	回答数	構成比
(1) 居間	143	50.4%
(2) 子ども部屋	10	3.5%
(3) 寝室	122	43.0%
(4) その他	5	1.8%
無回答	4	1.4%
計	284	100.0%

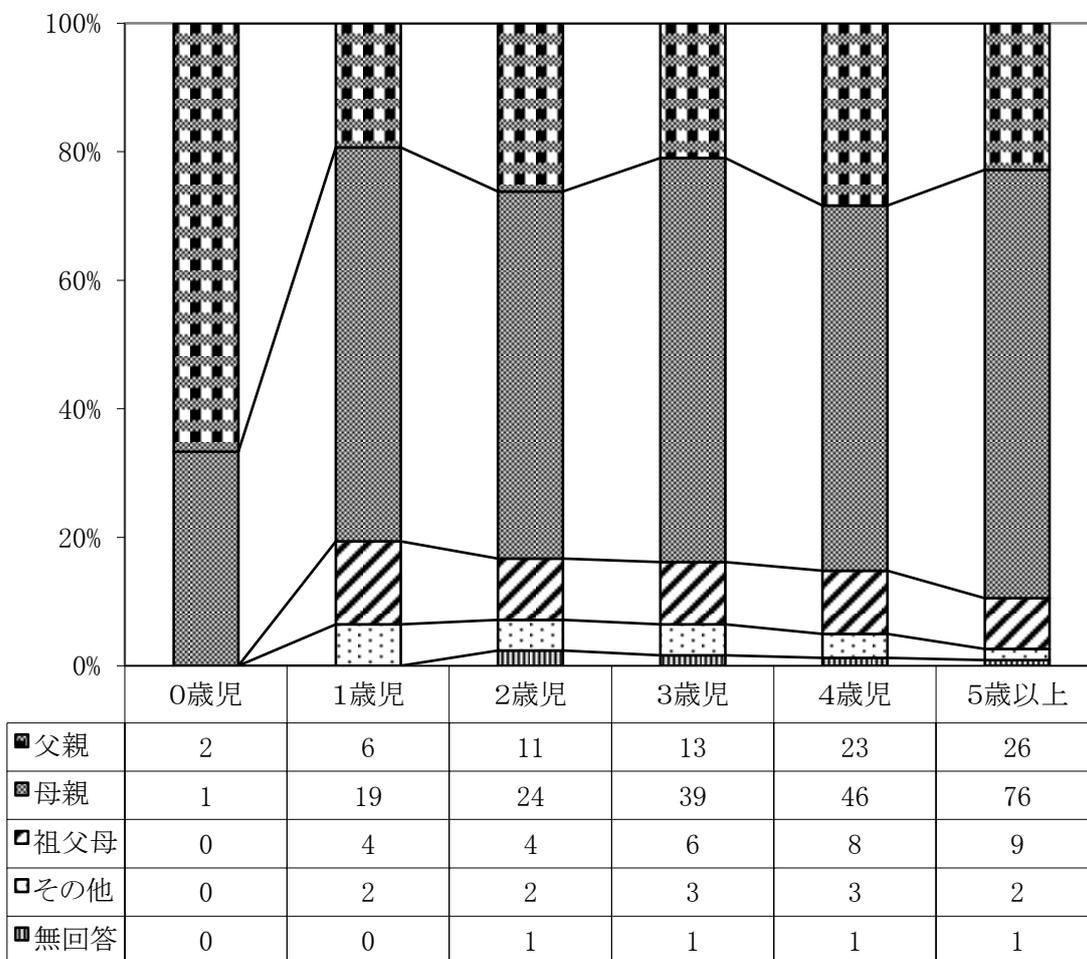


問8 誰が読みますか。

	回答数	構成比
(1) 父親	81	24.3%
(2) 母親	205	61.6%
(3) 祖父母	31	9.3%
(4) その他	12	3.6%
無回答	4	1.2%
計	333	100.0%

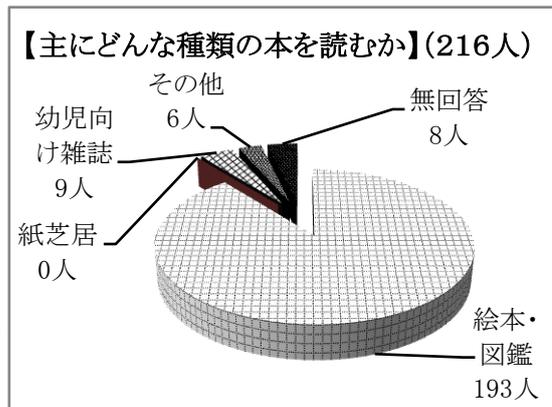


【誰が読むか】(年齢別)

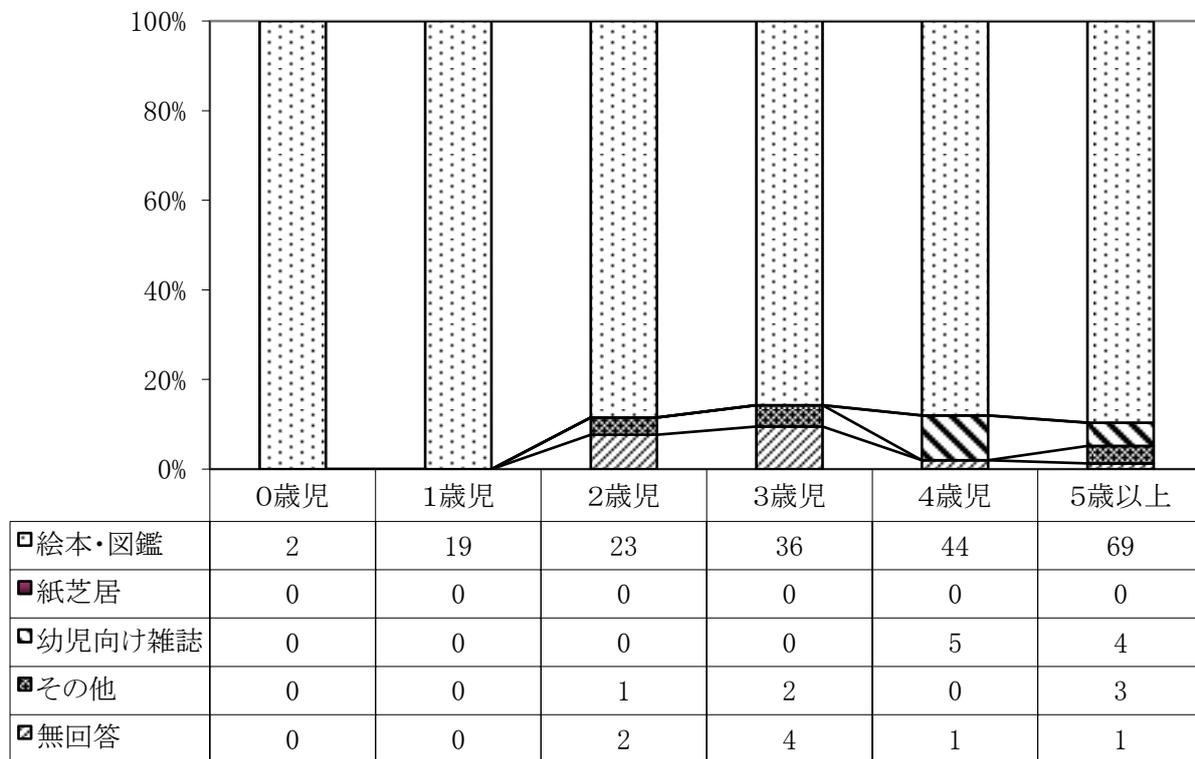


問9 主に何を 읽습니다か。

	回答数	構成比
(1) 絵本・図鑑	193	89.4%
(2) 紙芝居	0	0.0%
(3) 幼児向け雑誌	9	4.2%
(4) その他	6	2.8%
無回答	8	3.7%
計	216	100.0%

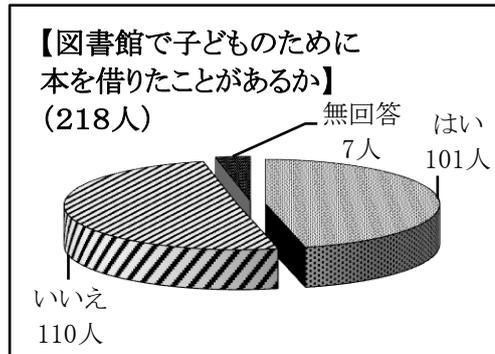


【主にどんな種類の本を読むか】(年齢別)

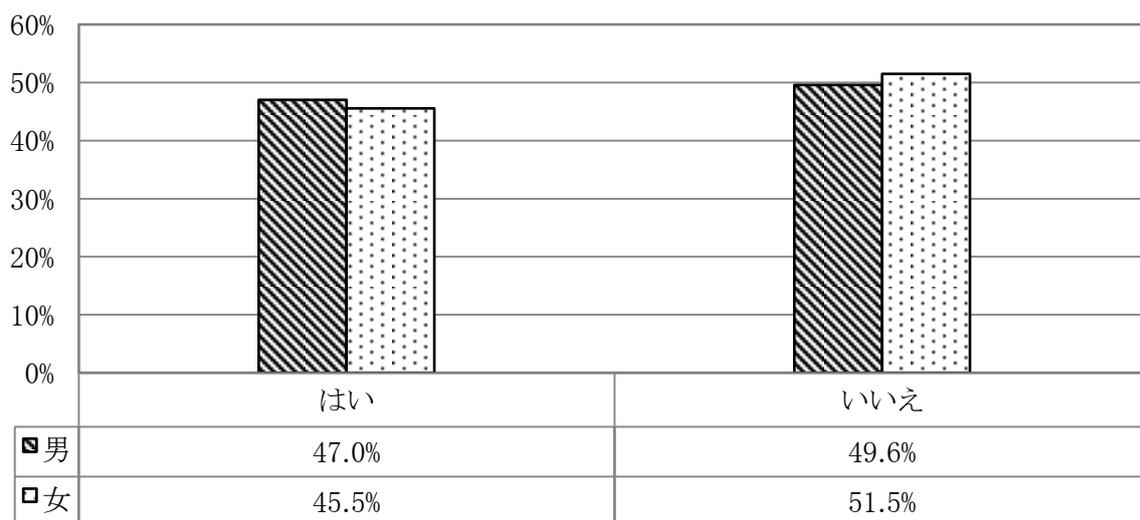


問10 図書館に子どもの絵本や紙芝居を借りに行ったことがありますか。

	回答数	構成比
(1) はい	101	46.3%
(2) いいえ	110	50.5%
無回答	7	3.2%
計	218	100.0%

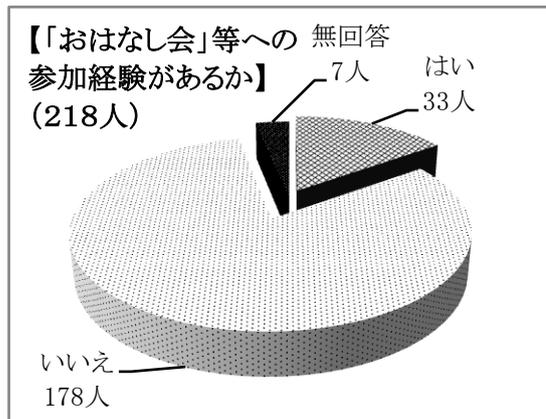


【図書館で子どものために本を借りたことがあるか】(性別)

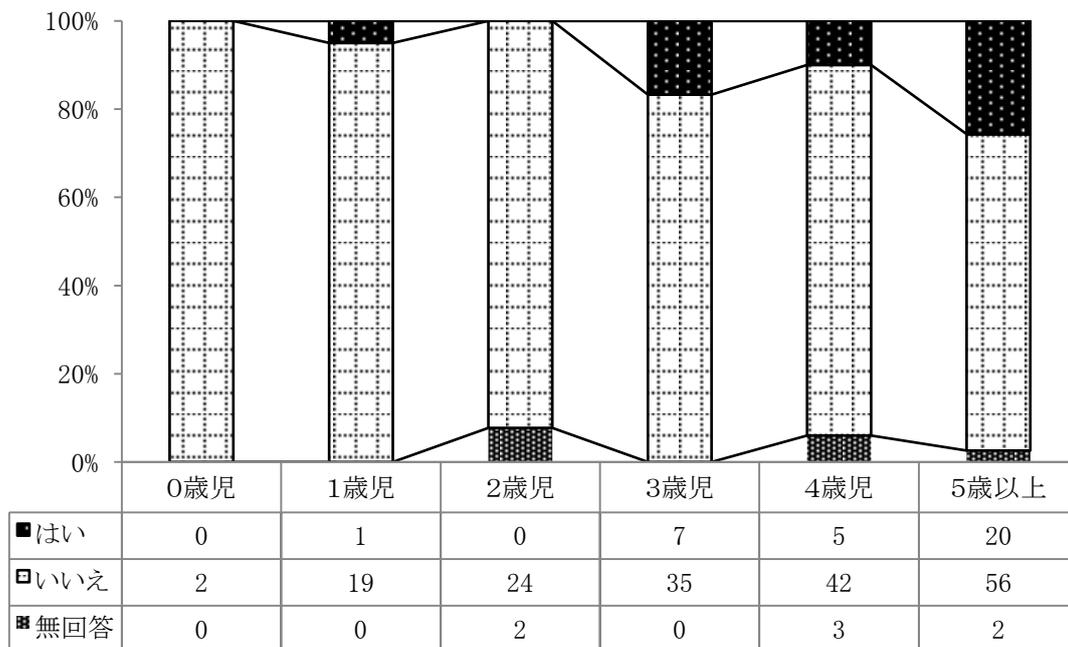


問11 図書館で行っている「おはなし会」などに参加したことがありますか。

	回答数	構成比
(1) はい	33	15.1%
(2) いいえ	178	81.7%
無回答	7	3.2%
計	218	100.0%



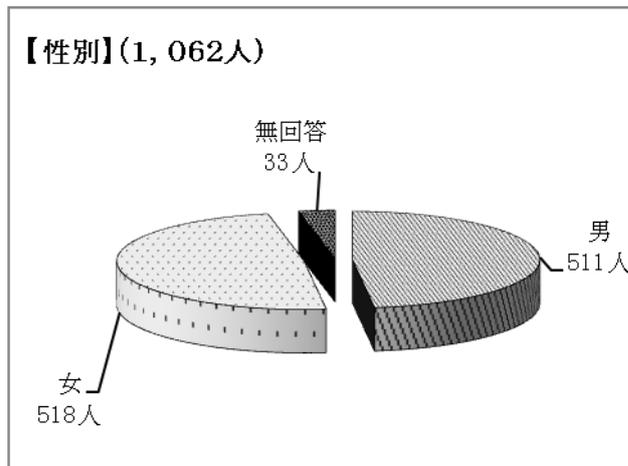
【「おはなし会」等への参加経験があるか】
(年齢別)



(2) 児童・生徒へのアンケート調査結果(市内の小学校5年生及び中学校2年生)

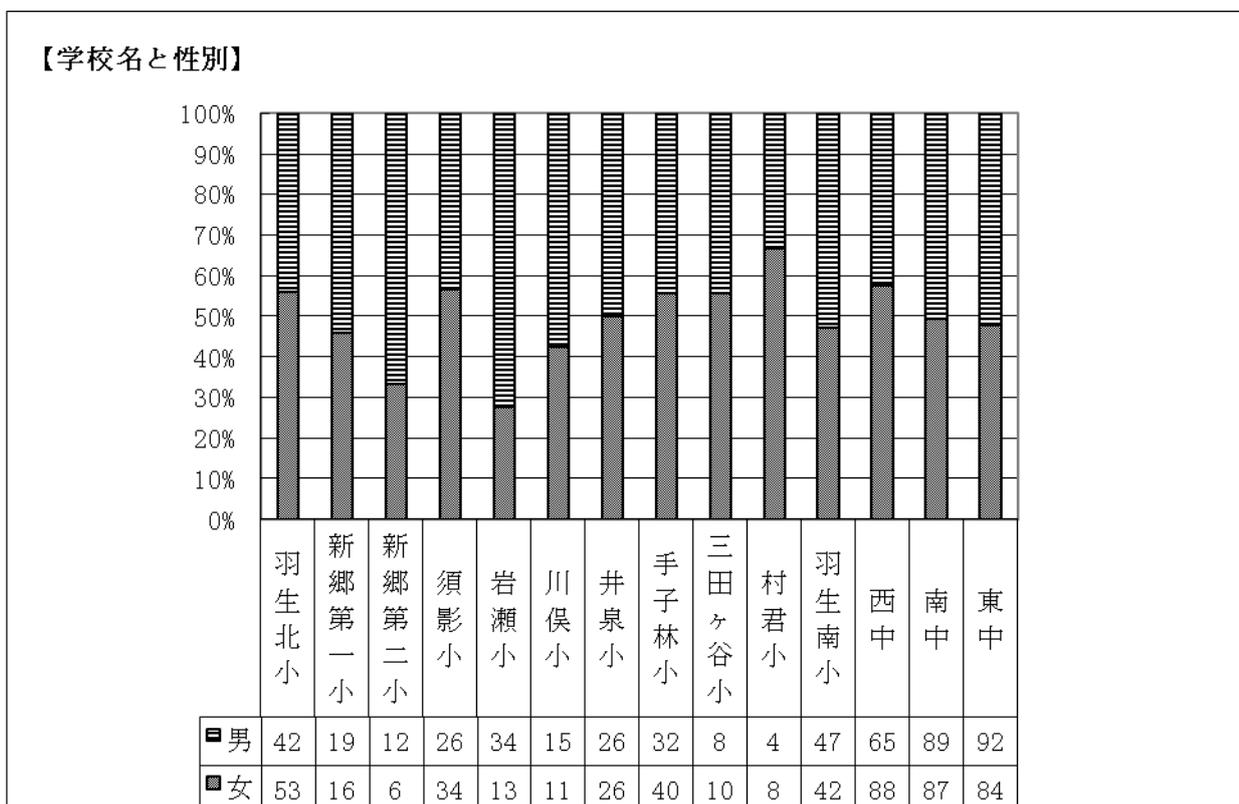
問1 性別

性別	回答数	構成比
男	511	48.1%
女	518	48.8%
無回答	33	3.1%
計	1062	100.0%



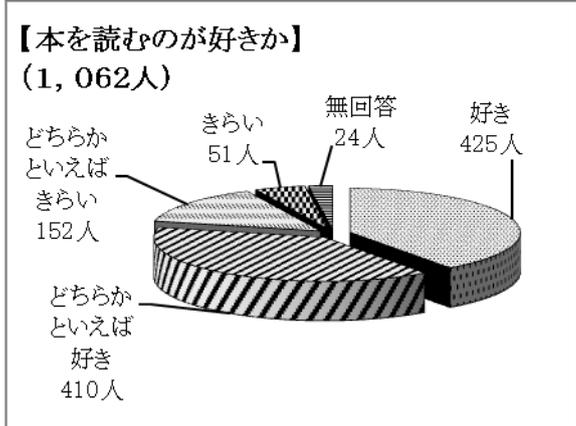
問2 学校名

学校名	回答数	構成比	学校名	回答数	構成比
羽生北小	97	9.1%	三田ヶ谷小	20	1.9%
新郷第一小	35	3.3%	村君小	12	1.1%
新郷第二小	18	1.7%	羽生南小	89	8.4%
須影小	60	5.6%	西中	154	14.5%
岩瀬小	47	4.4%	南中	178	16.8%
川俣小	26	2.4%	東中	176	16.6%
井泉小	52	4.9%	無回答	24	2.3%
手子林小	74	7.0%	計	1062	100.0%

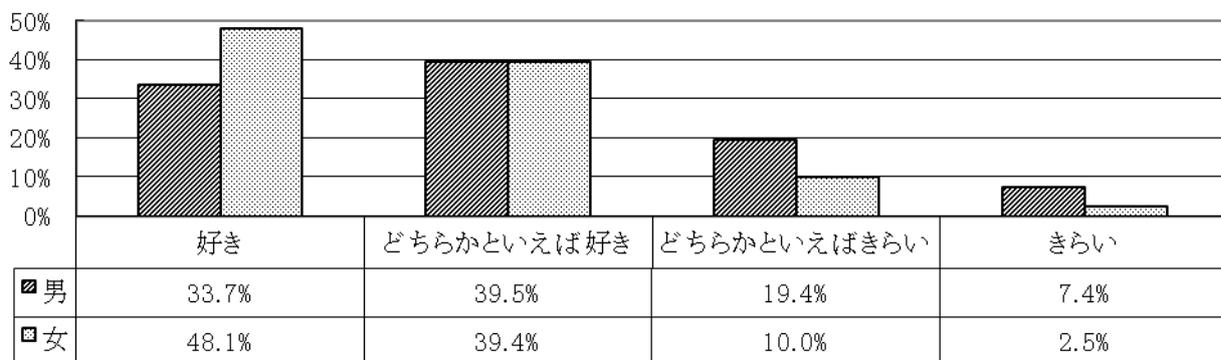


問3 あなたは本を読むことが好きですか。

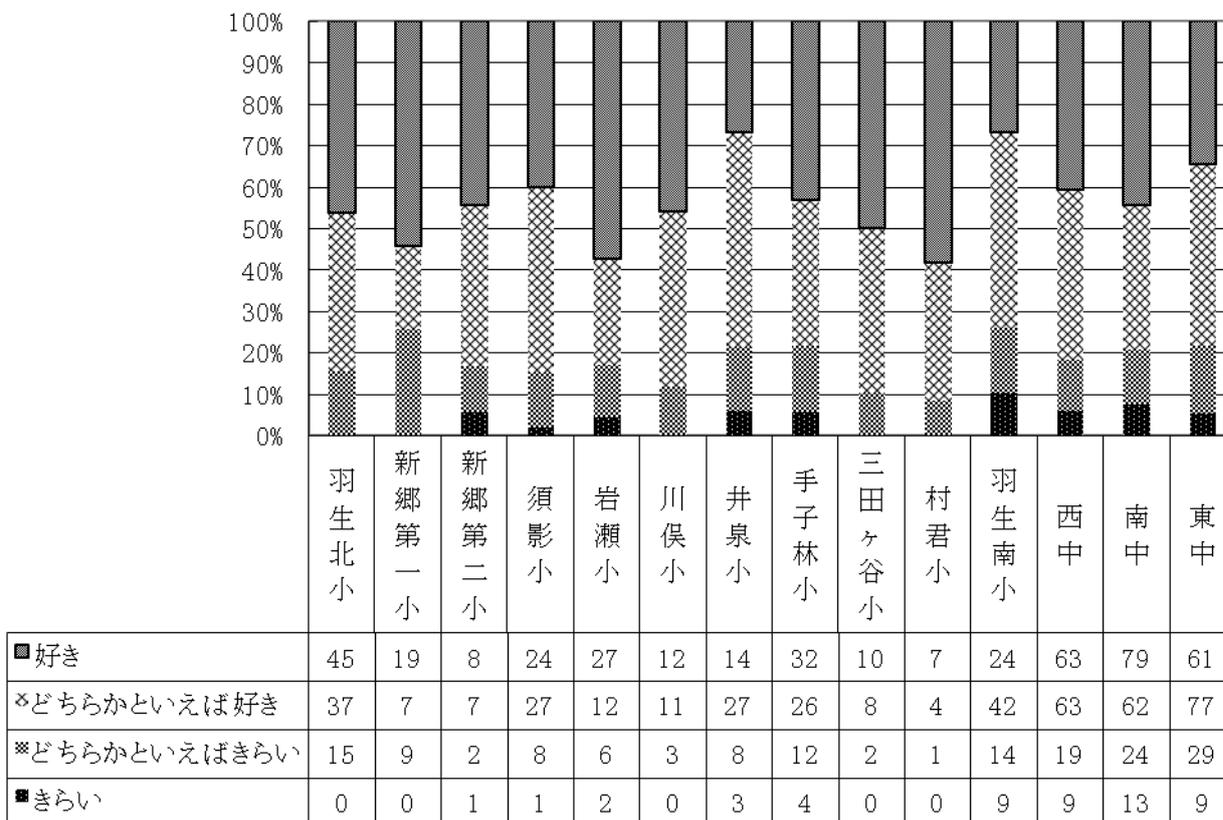
	回答数	構成比
(1) 好き	425	40.0%
(2) どちらかといえば好き	410	38.6%
(3) どちらかといえばきらい	152	14.3%
(4) きらい	51	4.8%
無回答	24	2.3%
計	1062	100.0%



【本を読むのが好きか】(性別)

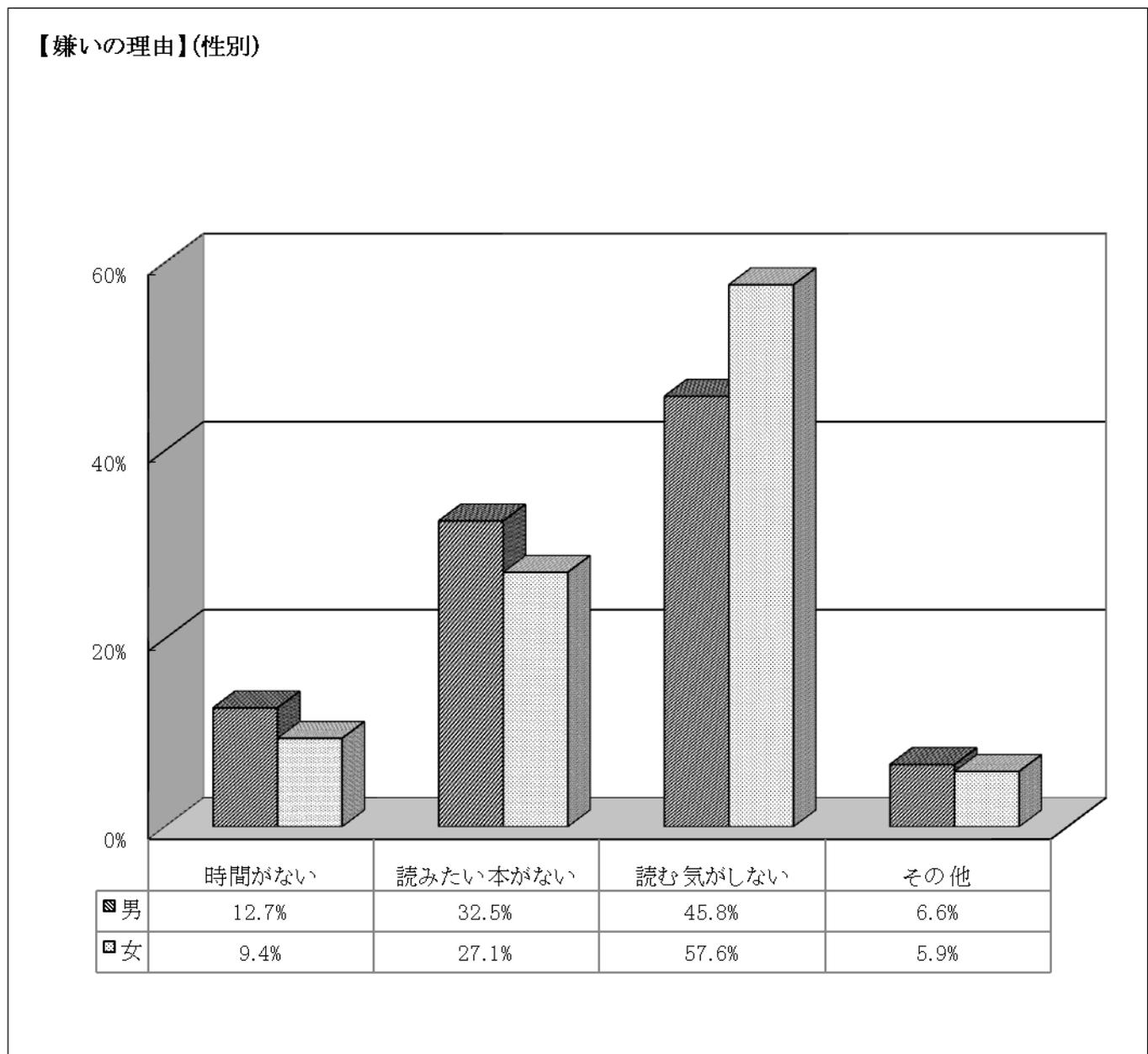
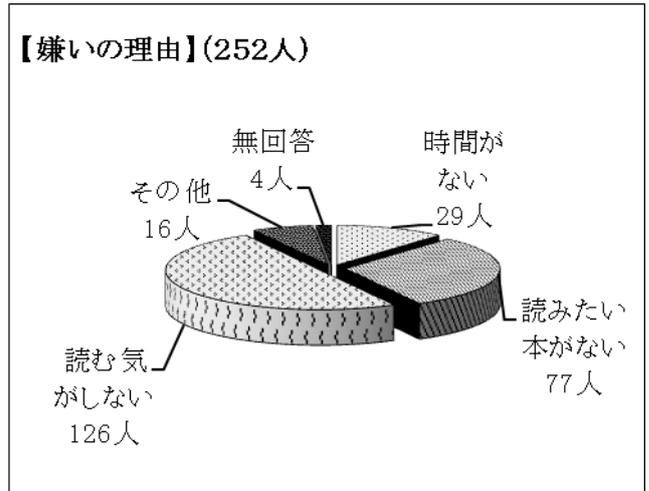


【本を読むのが好きか】(学校別)



問3-① 問3で「3. どちらかといえばきれい、4. きれい」と答えた方にお伺いします。その理由はどんなことですか(2つまで)。

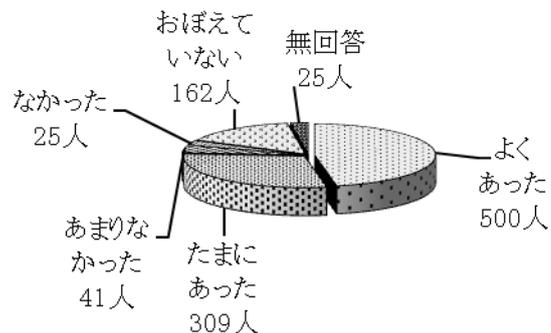
	回答数	構成比
(1) 時間がない	29	11.5%
(2) 読みたい本がない	77	30.6%
(3) 読む気がしない	126	50.0%
(4) その他	16	6.3%
無回答	4	1.6%
計	252	100.0%



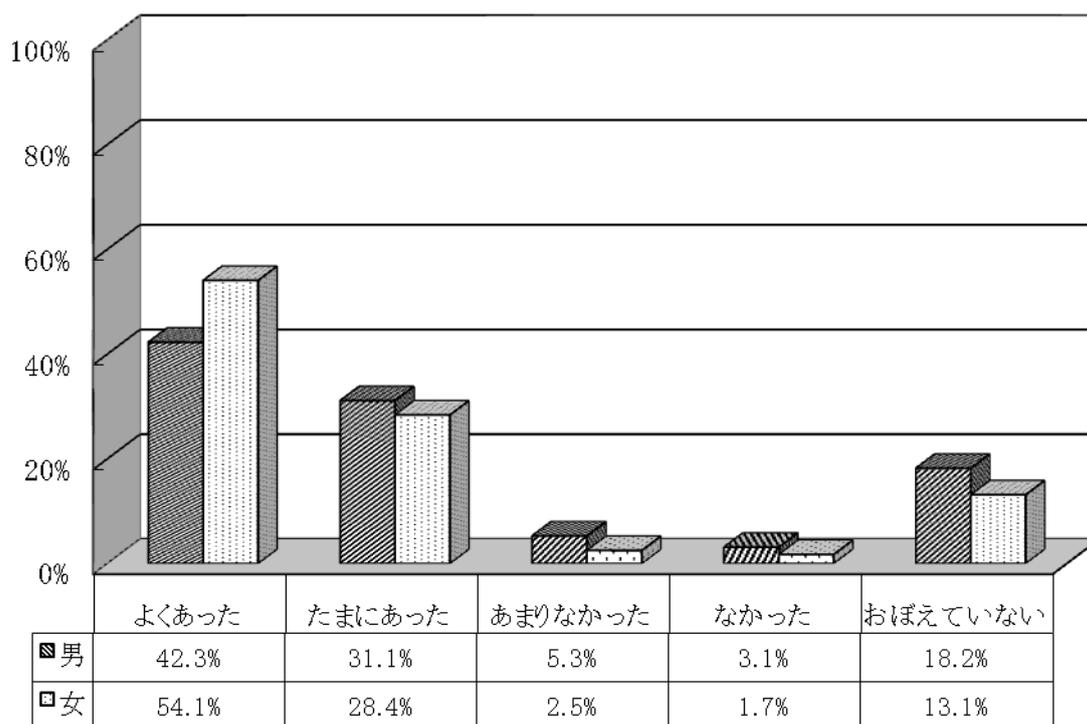
問4 小さいとき、家の人や保育所(園)、幼稚園の先生などに本を読んでもらったことがありますか。

	回答数	構成比
(1) よくあった	500	47.1%
(2) たまにあった	309	29.1%
(3) あまりなかった	41	3.9%
(4) なかった	25	2.4%
(5) おぼえていない	162	15.3%
無回答	25	2.4%
計	1062	100.0%

【小さいときに本を読んでもらったこと】
(1,062人)

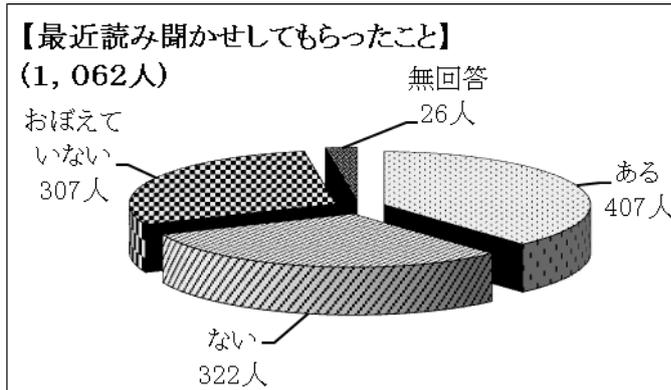


【小さいときに本を読んでもらったこと】(性別)

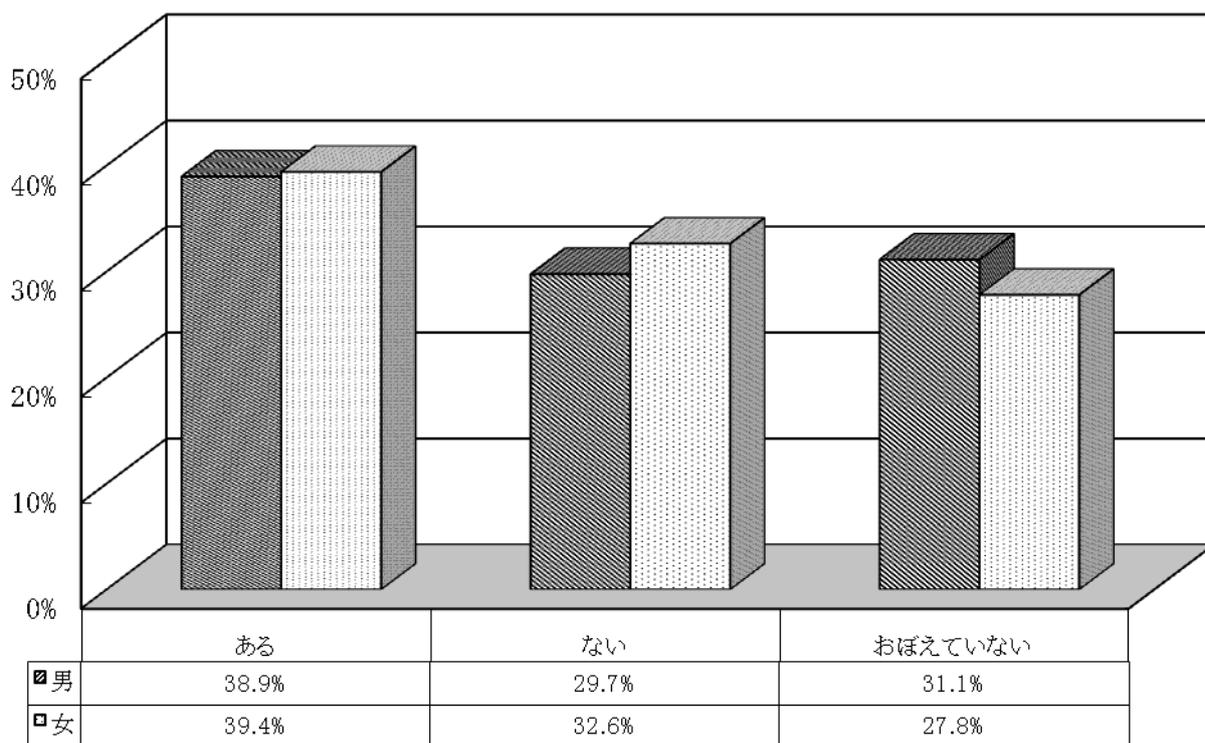


問5 あなたは、最近(1年くらい前～今日)家や学校などで読み聞かせをしてもらったことがありますか。

	回答数	構成比
(1) ある	407	38.3%
(2) ない	322	30.3%
(3) おぼえていない	307	28.9%
無回答	26	2.4%
計	1062	100.0%

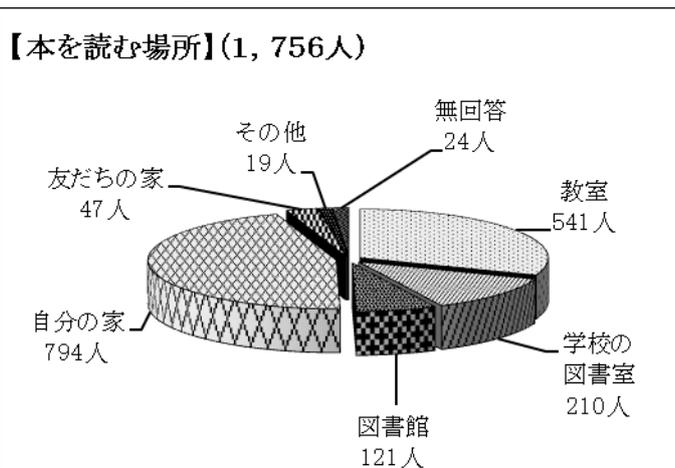


【最近読み聞かせをしてもらったこと】(性別)

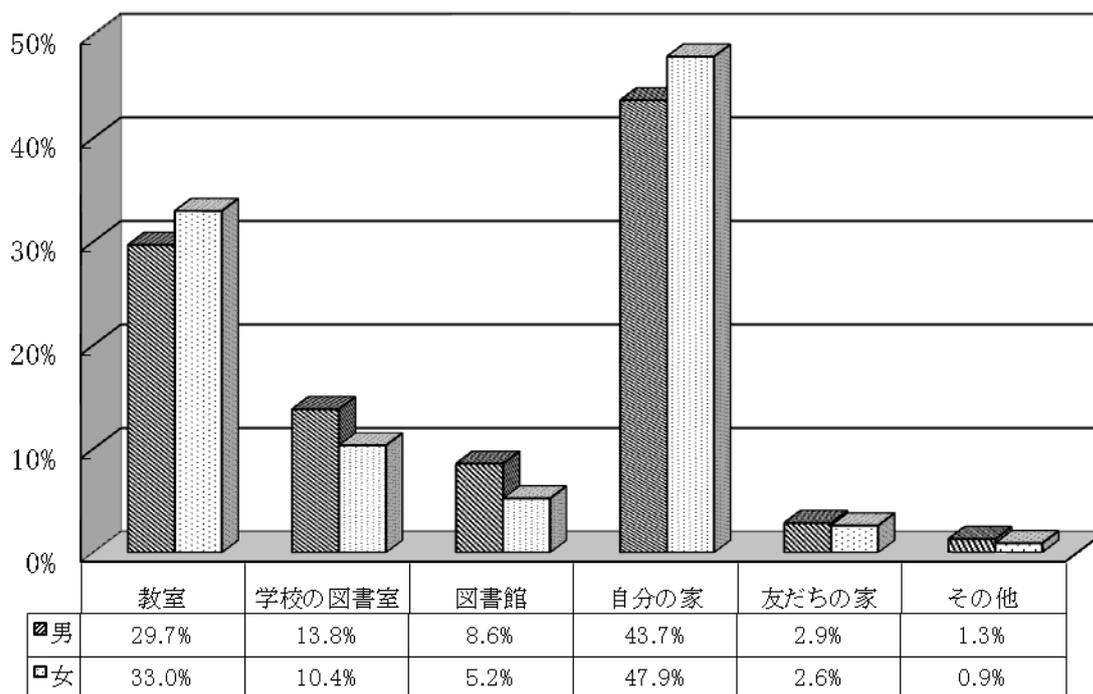


問6 あなたは本を読むとき、どこで読むことが多いですか(2つまで)。

	回答数	構成比
(1) 教室	541	30.8%
(2) 学校の図書室	210	12.0%
(3) 図書館	121	6.9%
(4) 自分の家	794	45.2%
(5) 友だちの家	47	2.7%
(6) その他	19	1.1%
無回答	24	1.4%
計	1756	100.0%

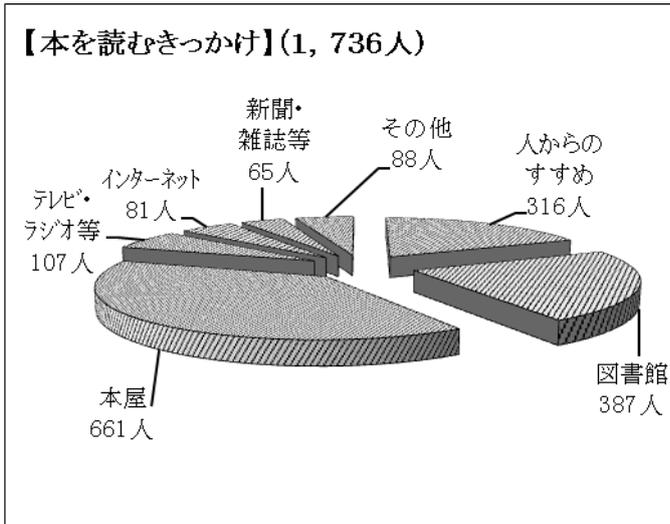


【本を読む場所】(性別)

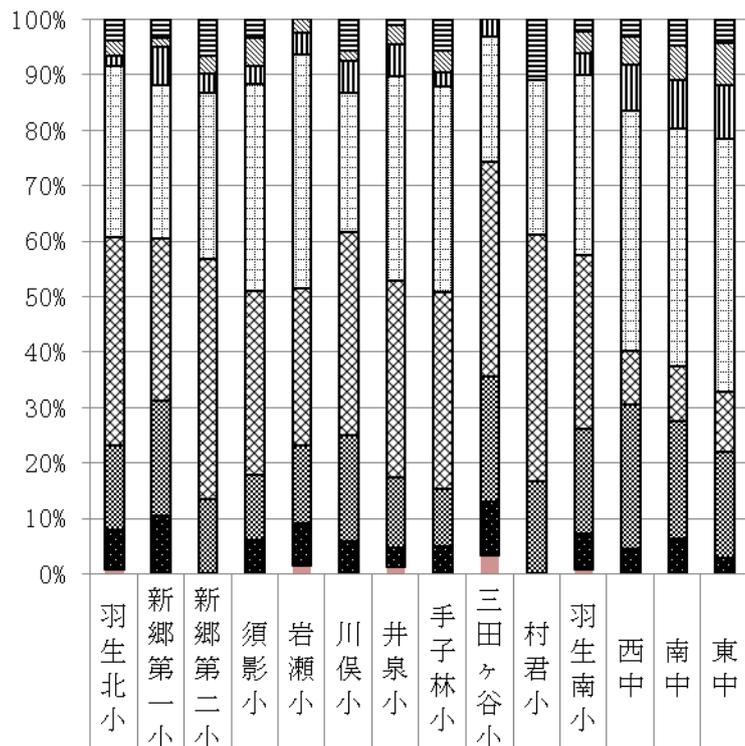


問7 あなたはどんなきっかけで、本を読むことが多いですか(2つまで)。

	回答数	構成比
(1) 人からのすすめ	316	18.2%
(2) 図書館	387	22.3%
(3) 本屋	661	38.1%
(4) テレビ・ラジオ等	107	6.2%
(5) インターネット	81	4.7%
(6) 新聞・雑誌等	65	3.7%
(7) その他	88	5.1%
無回答	31	1.8%
計	1736	100.0%



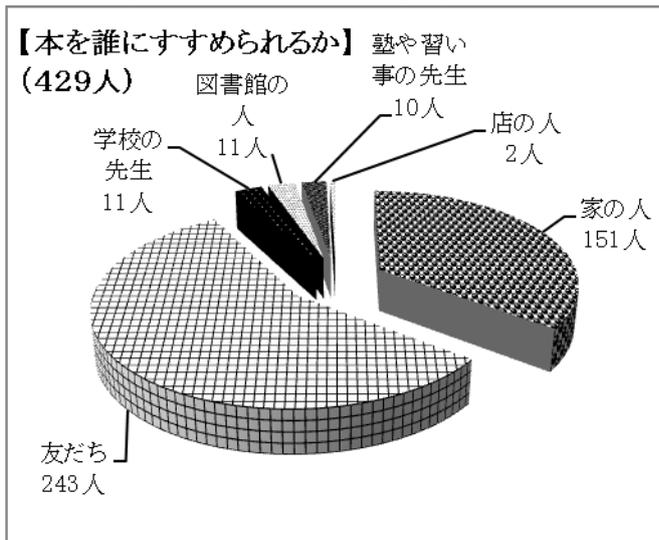
【本を読むきっかけ】(学校別)



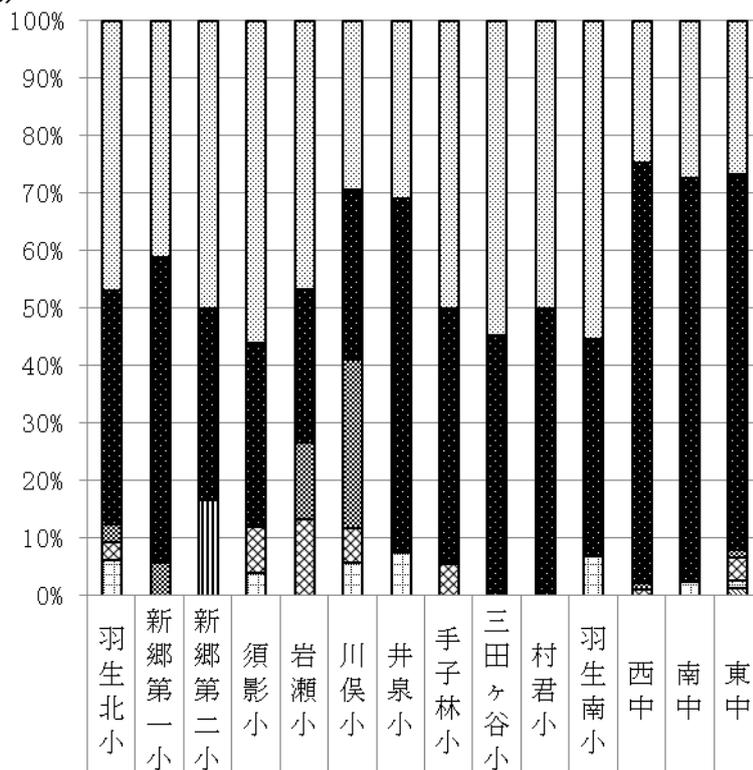
新聞(子ども新聞も含みます)や雑誌で見たから	6	2	2	4	0	3	1	7	0	2	3	8	14	13
インターネットで見たから	4	1	1	6	2	1	3	5	0	0	5	13	18	22
テレビやラジオでおもしろいと言っていたから	3	4	1	4	3	3	5	3	1	0	5	21	26	28
本屋で見ておもしろそうだったから	47	16	9	44	33	13	32	46	7	5	41	110	125	133
図書館で見ておもしろそうだったから	57	17	13	39	22	19	31	44	12	8	40	25	29	31
人にすすめられて	23	12	4	14	11	10	11	13	7	3	24	66	62	56
その他	11	6	0	7	6	3	3	6	3	0	8	10	17	8
無回答	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	1	1	0

問7-① 問7で「1. 人にすすめられて」と答えた方にお伺いします。あなたは本を読むとき、誰にすすめられることが多いですか(2つまで)。

	回答数	構成比
(1) 家の人	151	35.2%
(2) 友だち	243	56.6%
(3) 学校の先生	11	2.6%
(4) 図書館の人	11	2.6%
(5) 塾や習い事の先生	10	2.3%
(6) 店の人	1	0.2%
(7) 親戚の人	1	0.2%
無回答	1	0.2%
計	429	100.0%



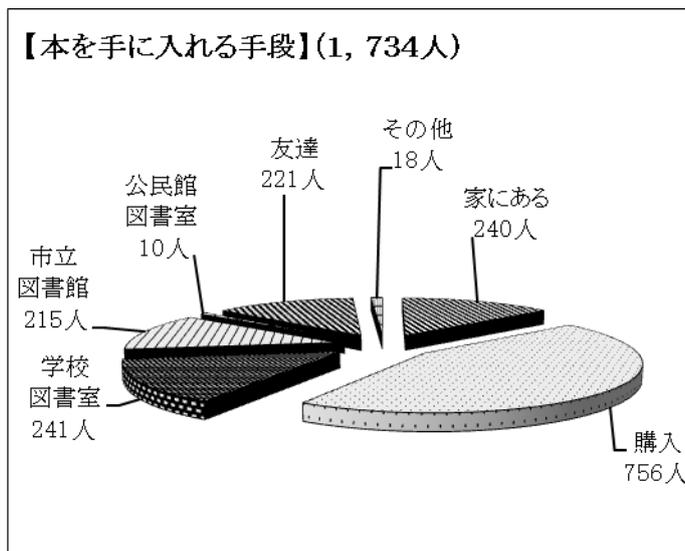
【本を誰にすすめられるか】(学校別)



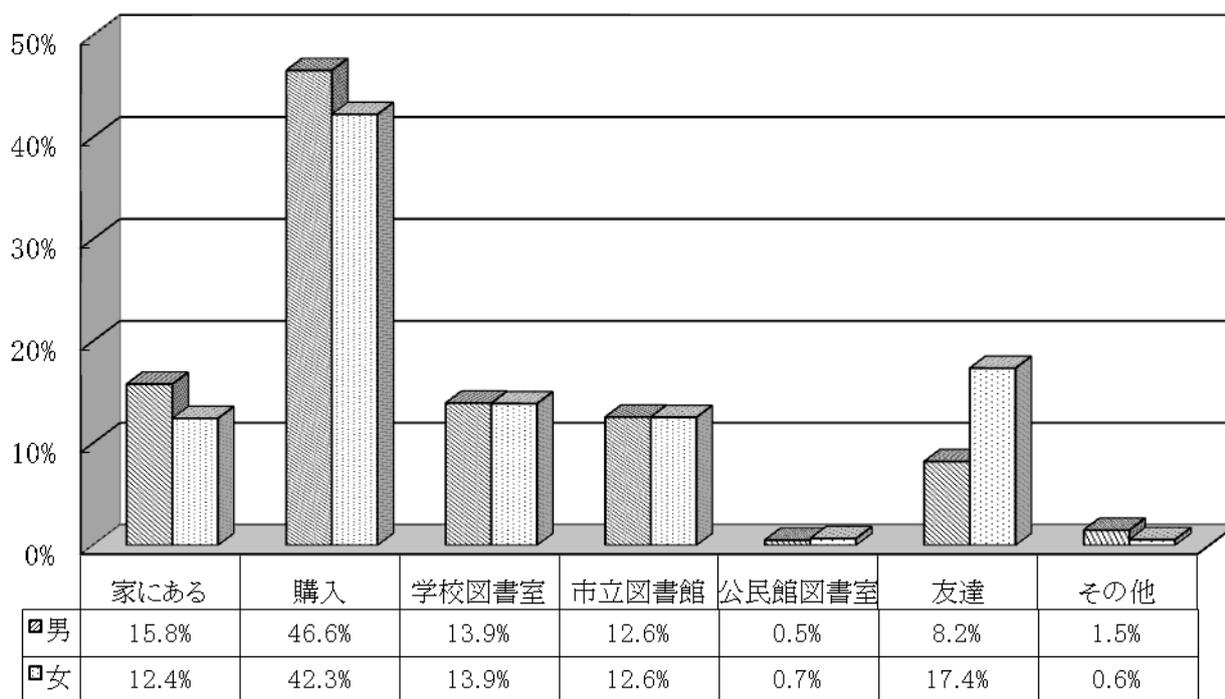
家の人	15	7	3	14	7	5	4	9	6	2	16	22	21	20
友だち	13	9	2	8	4	5	8	8	5	2	11	65	54	49
学校の先生	1	1	0	0	2	5	0	0	0	0	0	1	0	1
図書館の人	1	0	0	2	2	1	0	1	0	0	0	1	0	3
塾や習い事の先生	2	0	0	1	0	1	1	0	0	0	2	0	2	1
店の人	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
親戚の人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

問8 あなたは本を読むとき、その本をどのようにして手に入れることが多いですか(2つまで)。

	回答数	構成比
(1) 家にある	240	13.8%
(2) 購入	756	43.6%
(3) 学校図書室	241	13.9%
(4) 市立図書館	215	12.4%
(5) 公民館図書室	10	0.6%
(6) 友達	221	12.7%
(7) その他	18	1.0%
無回答	33	1.9%
計	1734	100.0%

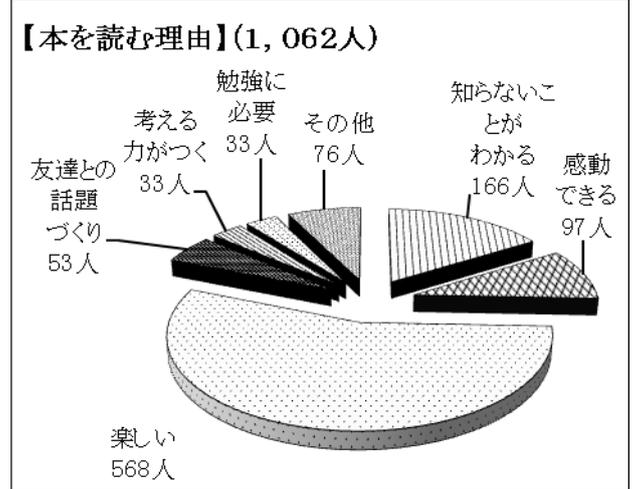


【本を手に入れる手段】(性別)



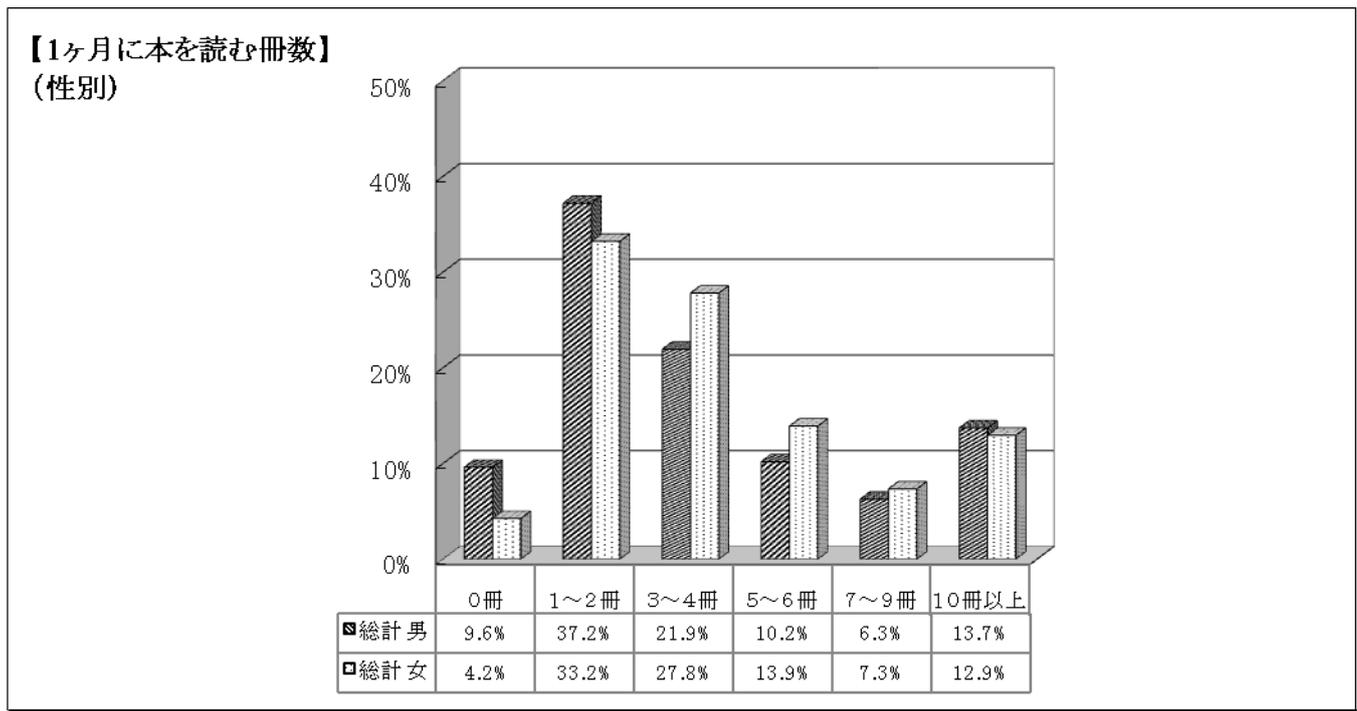
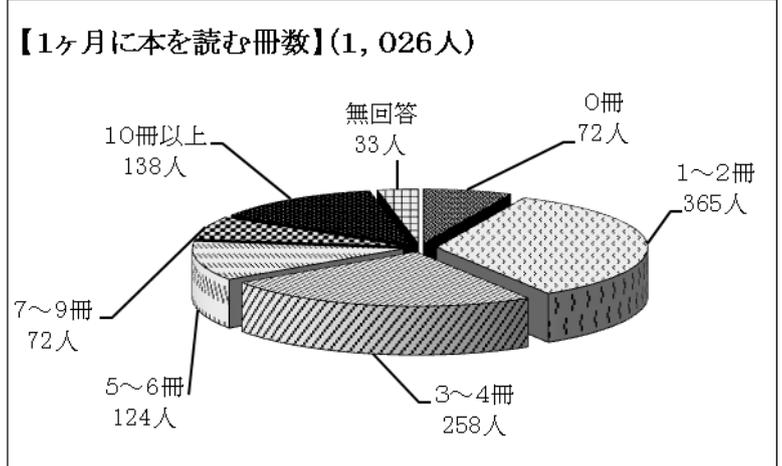
問9 あなたが本を読むのはどうしてですか。最もあてはまるものを1つ選んでください。

	回答数	構成比
(1) 知らないことがわかる	166	15.6%
(2) 感動できる	97	9.1%
(3) 楽しい	568	53.5%
(4) 友達との話題づくり	53	5.0%
(5) 考える力がつく	33	3.1%
(6) 勉強に必要	33	3.1%
(7) その他	76	7.2%
無回答	36	3.4%
計	1062	100.0%



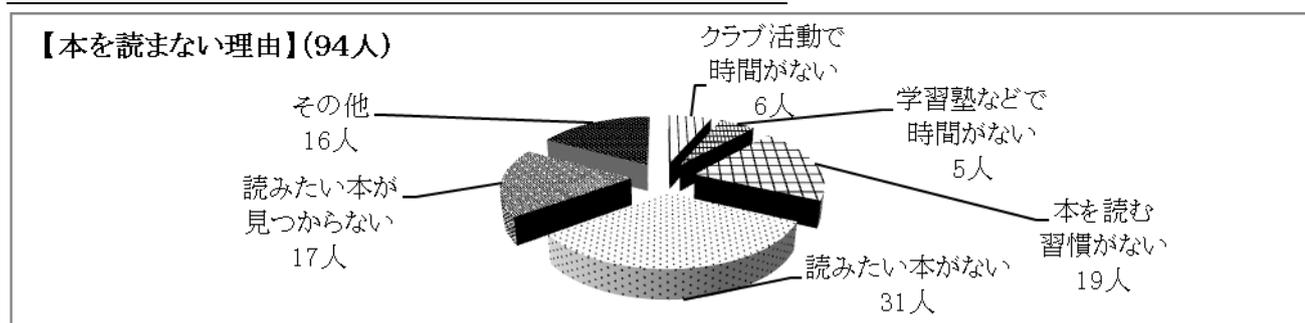
問10 最近1か月に、本を何冊くらい読みましたか。読んでいる途中でも1冊に入れてください。

	回答数	構成比
(1) 0冊	72	6.8%
(2) 1~2冊	365	34.4%
(3) 3~4冊	258	24.3%
(4) 5~6冊	124	11.7%
(5) 7~9冊	72	6.8%
(6) 10冊以上	138	13.0%
無回答	33	3.1%
計	1062	100.0%



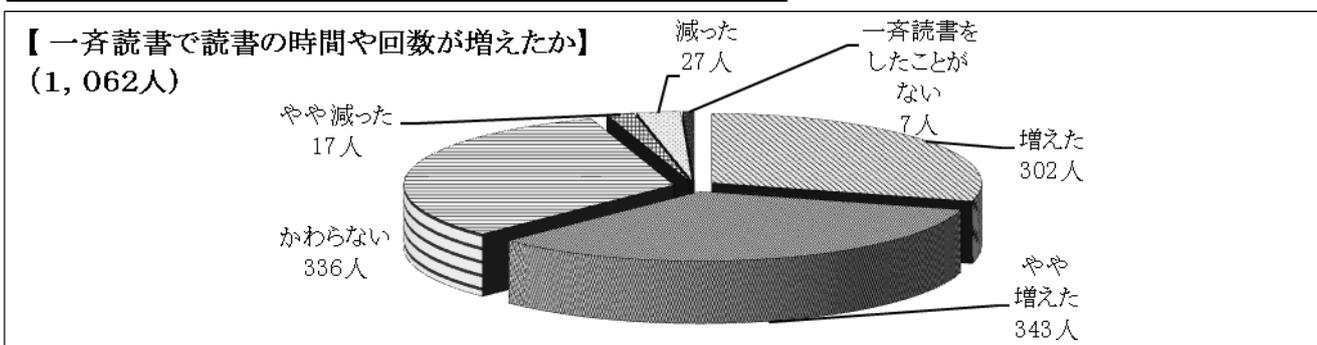
問10-① 問10で「(1). 0冊」と答えた方にお伺いします。あなたが本を読まない理由は何ですか(2つ)。

	回答数	構成比
(1) クラブ活動で時間がない	6	6.4%
(2) 学習塾などで時間がない	5	5.3%
(3) 本を読む習慣がない	19	20.2%
(4) 読みたい本がない	31	33.0%
(5) 読みたい本が見つからない	17	18.1%
(6) その他	16	17.0%
無回答	0	0.0%
計	94	100.0%

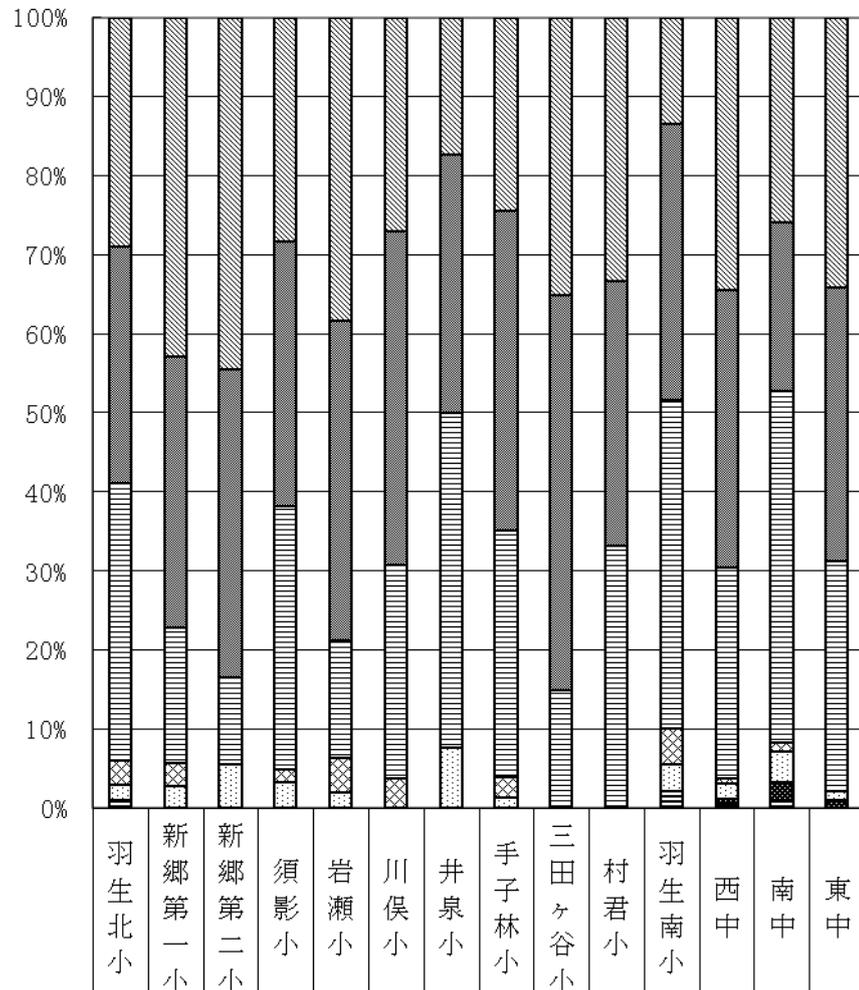


問11 今までの学校の一斉読書の時間(「朝読書」「読書の時間」など)をきっかけとして本を読む時間や回数が増えましたか。

	回答数	構成比
(1) 増えた	302	28.4%
(2) やや増えた	343	32.3%
(3) かわらない	336	31.6%
(4) やや減った	17	1.6%
(5) 減った	27	2.5%
(6) 一斉読書をしたことがない	7	0.7%
無回答	30	2.8%
計	1062	100.0%



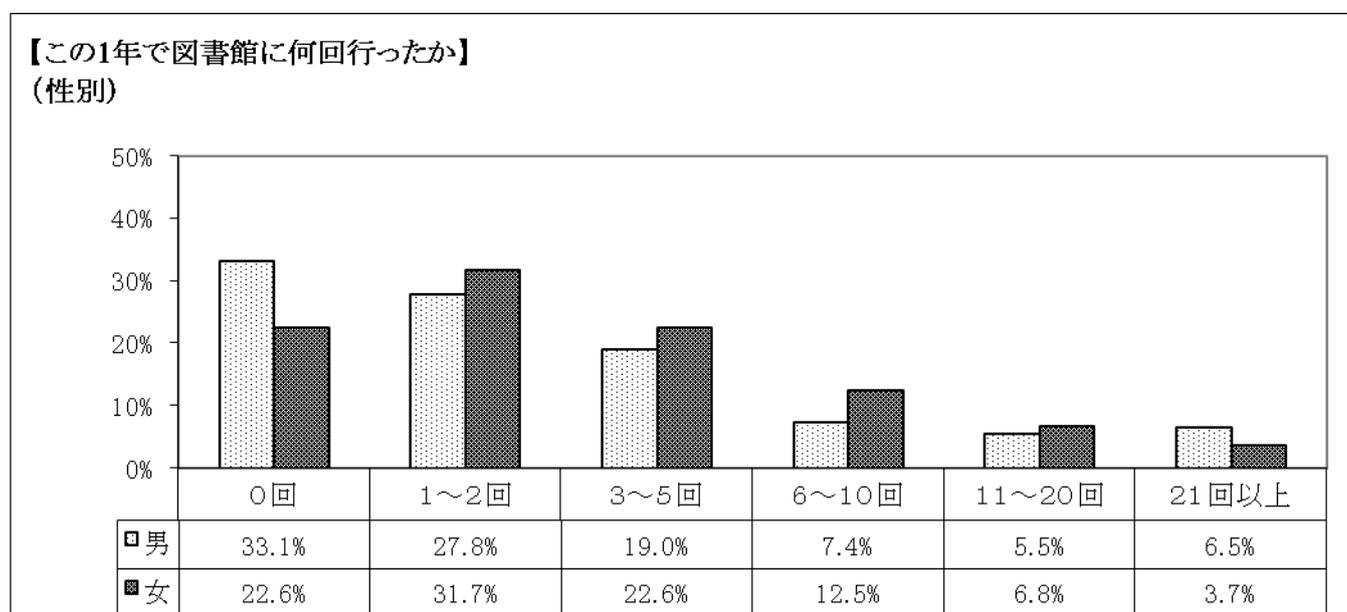
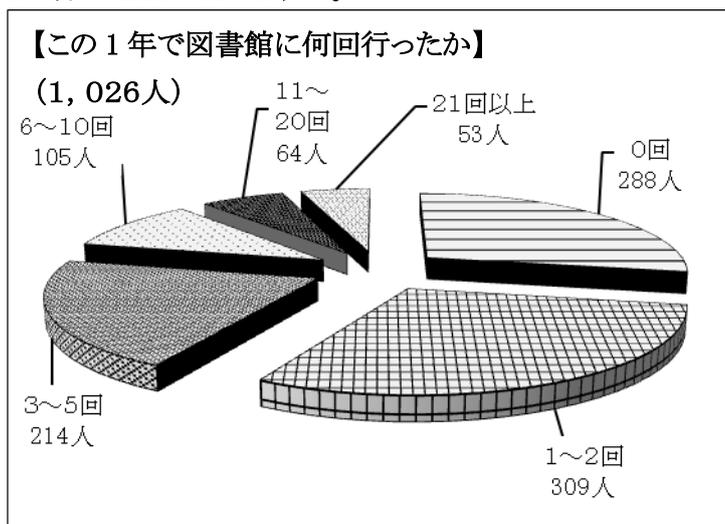
【一斉読書で読書の時間や回数が増えたか】(学校別)



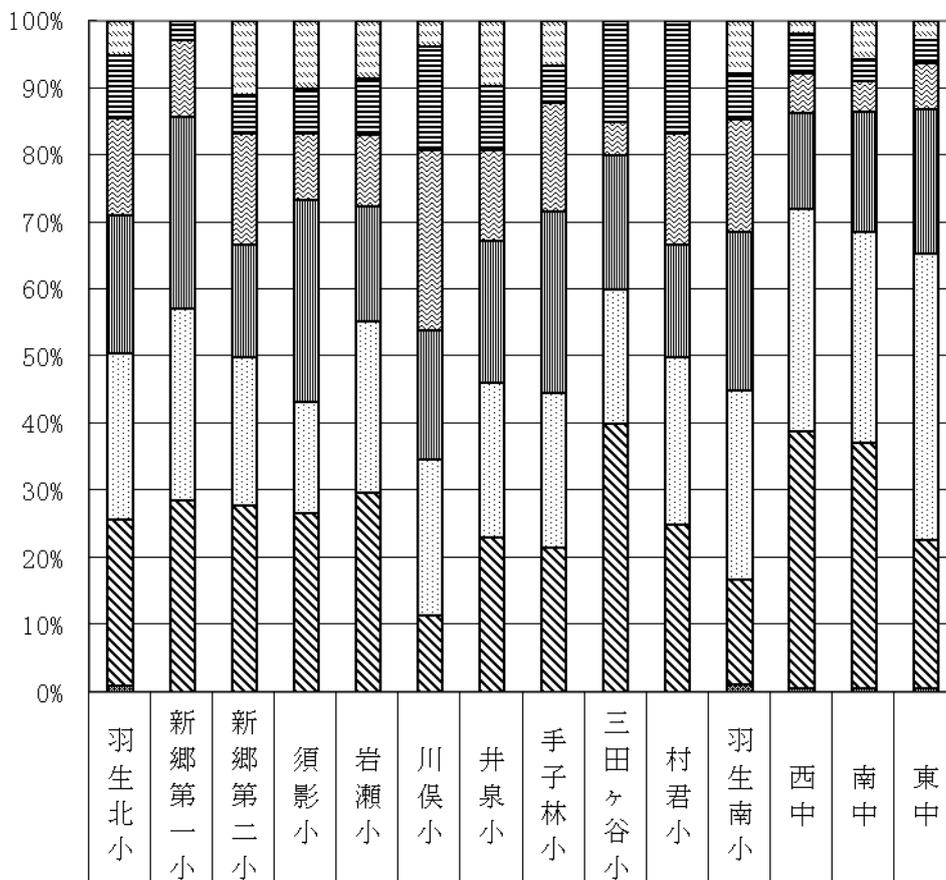
■ 増えた	28	15	8	17	18	7	9	18	7	4	12	53	46	60
■ やや増えた	29	12	7	20	19	11	17	30	10	4	31	54	38	61
□ かわらない	34	6	2	20	7	7	22	23	3	4	37	41	79	51
□ やや減った	3	1	0	1	2	1	0	2	0	0	4	1	2	0
□ 減った	2	1	1	2	1	0	4	1	0	0	3	3	7	2
■ 一斉読書をしたことがない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	2
□ 無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0

問 12 あなたはこの1年間に市の図書館に何回ぐらい行ったことがありますか。

	回答数	構成比
(1) 0回	288	27.1%
(2) 1～2回	309	29.1%
(3) 3～5回	214	20.2%
(4) 6～10回	105	9.9%
(5) 11～20回	64	6.0%
(6) 21回以上	53	5.0%
無回答	29	2.7%
計	1062	100.0%



【この1年で図書館に何回行ったか】(学校別)

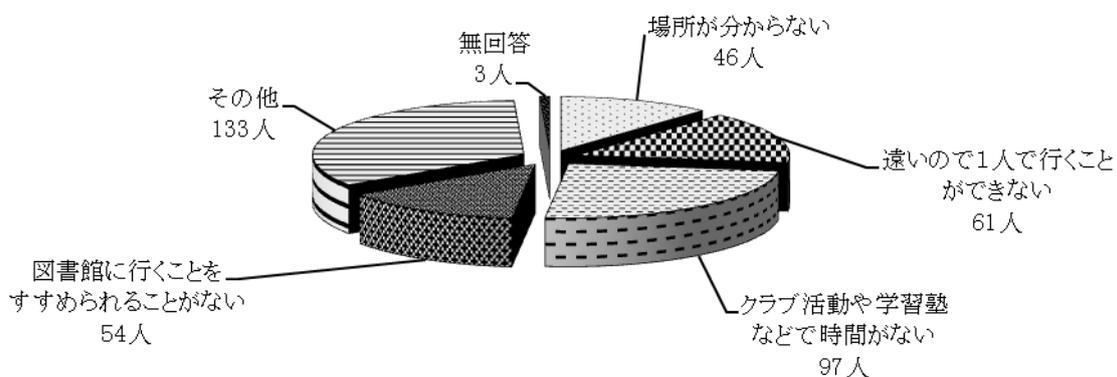


■ 21回以上	5	0	2	6	4	1	5	5	0	0	7	3	10	5
▨ 11~20回	9	1	1	4	4	4	5	4	3	2	6	9	6	6
▩ 6~10回	14	4	3	6	5	7	7	12	1	2	15	9	8	12
■ 3~5回	20	10	3	18	8	5	11	20	4	2	21	22	32	38
▨ 1~2回	24	10	4	10	12	6	12	17	4	3	25	51	56	75
▩ 0回	24	10	5	16	14	3	12	16	8	3	14	59	65	39
■ 無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1

問 12-① 問 12で「(1). 0回」と答えた方にお伺いします。あなたが市の図書館に行かない理由は何ですか(2つ)。

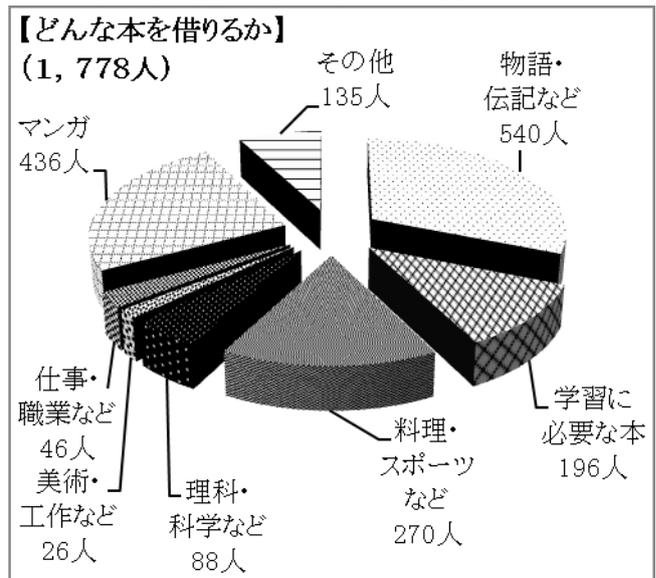
	回答数	構成比
(1) 場所がわからない	46	11.7%
(2) 遠いので1人で行くことができない	61	15.5%
(3) クラブ活動や学習塾などで時間がない	97	24.6%
(4) 図書館に行くことをすすめられることがない	54	13.7%
(5) その他	133	33.8%
無回答	3	0.8%
計	394	100.0%

【図書館に行かない理由】(回答数394人)

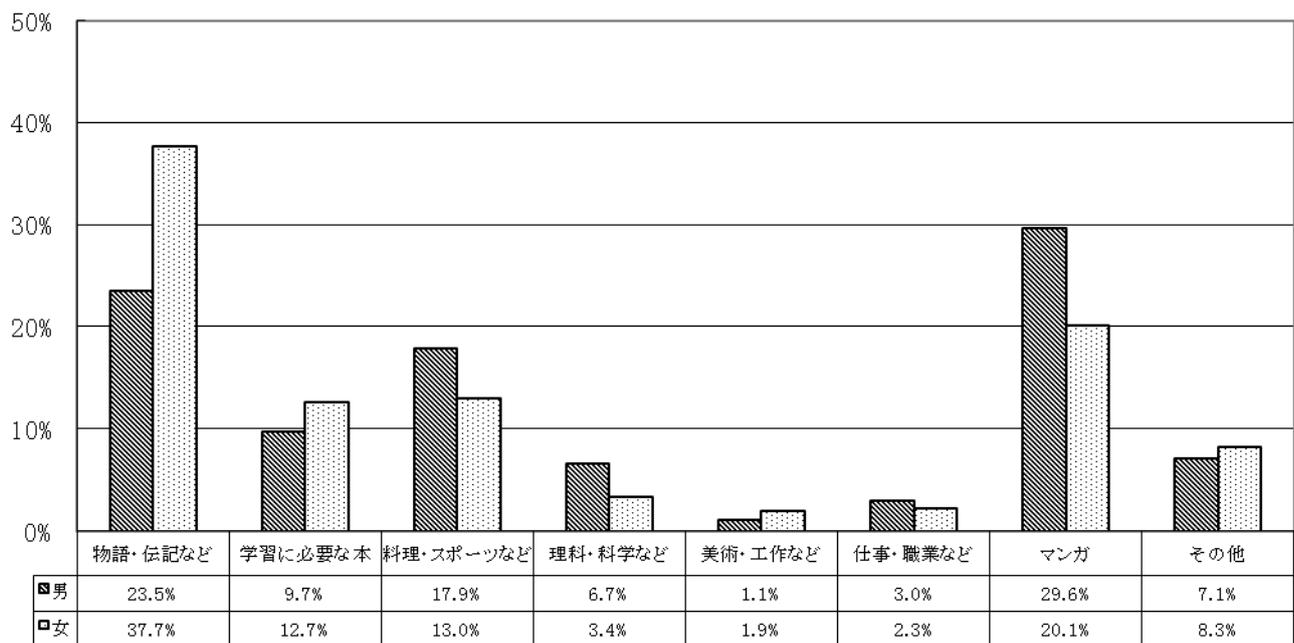


問13 学校の図書室や市の図書館などで本を借りるとき、どのような本を借りますか(2つまで)。

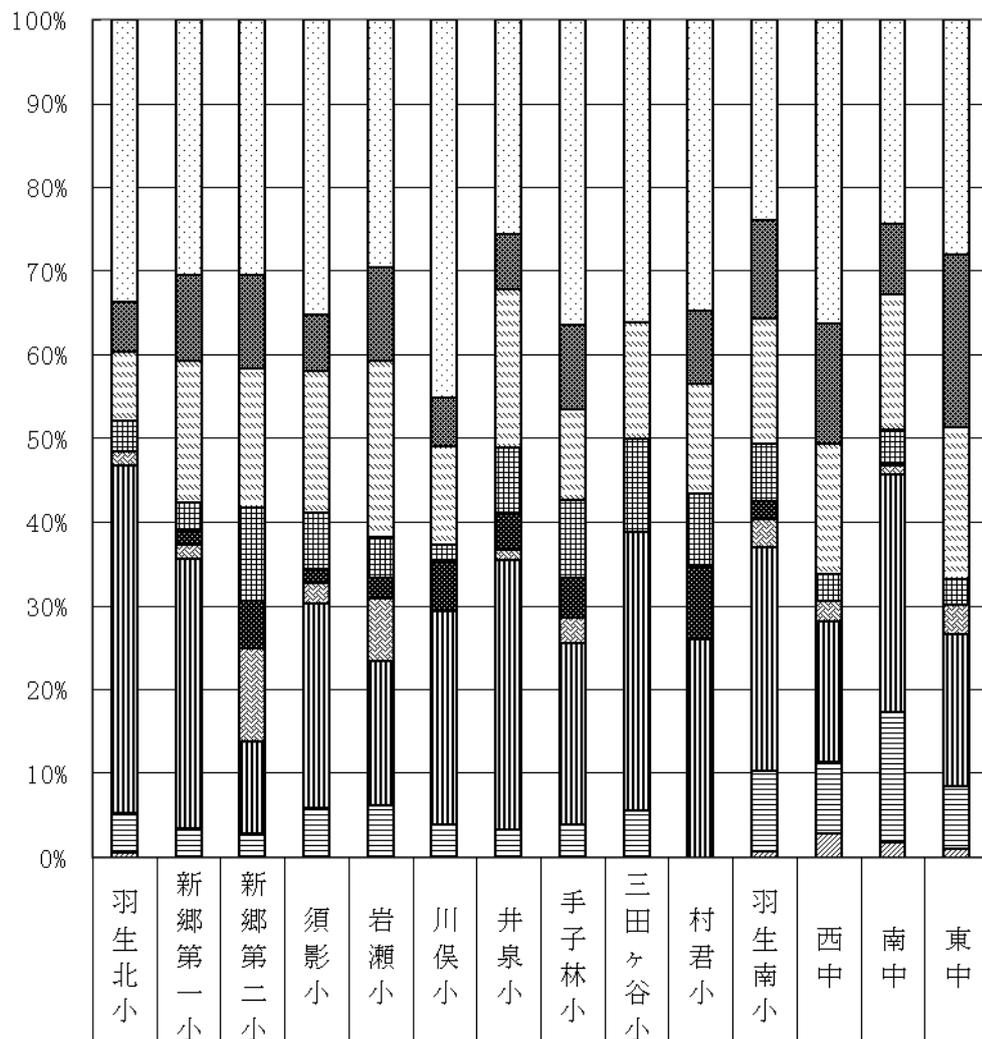
	回答数	構成比
(1) 物語・伝記など	540	30.4%
(2) 学習に必要な本	196	11.0%
(3) 料理・スポーツなど	270	15.2%
(4) 理科・科学など	88	4.9%
(5) 美術・工作など	26	1.5%
(6) 仕事・職業など	46	2.6%
(7) マンガ	436	24.5%
(8) その他	135	7.6%
無回答	41	2.3%
計	1778	100.0%



【どんな本を借りるか】(性別)



【どんな本を借りるか】(学校別)



□ 物語・伝記など	57	18	11	42	24	23	23	47	13	8	35	89	68	82
■ 学習に必要な本	10	6	4	8	9	3	6	13	0	2	17	35	23	60
□ 料理・スポーツなど	14	10	6	20	17	6	17	14	5	3	22	38	45	53
▣ 理科・科学など	6	2	4	8	4	1	7	12	4	2	10	8	11	9
■ 美術・工作など	0	1	2	2	2	3	4	6	0	2	3	0	1	0
■ 仕事・職業など	3	1	4	3	6	0	1	4	0	0	5	6	3	10
▣ マンガ	70	19	4	29	14	13	29	28	12	6	39	41	79	53
▣ その他	8	2	1	7	5	2	3	5	2	0	14	21	43	22
■ 無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7	5	3

2. 羽生市子ども読書活動推進計画策定委員名簿

所 属 等		氏 名
総 務 部	地域振興課地域振興係主任	今井 里恵
市 民 福 祉 部	子育て支援課課長補佐兼保育係長	◎ 関口 進
学 校 教 育 部	教育総務課庶務施設係	秋山 和代
学 校 教 育 部	学校教育課指導係指導主事	清水 典子
羽生南小学校	教諭	小島 栄子
生 涯 学 習 部	図書館業務係主査	○ 寺本真由美
生 涯 学 習 部	生涯学習課生涯学習係主事	前澤 有佑

◎ 委員長 ○ 副委員長

3. 羽生市子ども読書活動推進計画策定経過

開催年月日	審議内容
第1回子ども読書活動推進計画策定委員会 平成20年11月19日(水)	1. 正副委員長の選出 2. 子ども読書活動推進計画概要説明 3. 子ども読書活動推進計画策定に向けての 取り組みについて
第2回子ども読書活動推進計画策定委員会 平成21年8月21日(金)	アンケート調査実施についての検討① ・調査対象者・方法・項目等について
第3回子ども読書活動推進計画策定委員会 平成21年9月30日(水)	アンケート調査実施についての検討② ・アンケートの内容について
アンケート調査 平成21年10月19日～23日	対象者 ・保育所を利用している乳幼児の保護者 ・小学校5年生 ・中学校2年生
第4回子ども読書活動推進計画策定委員会 平成22年3月19日(金)	1. アンケートの集計結果について 2. 計画策定方針の検討
第5回子ども読書活動推進計画策定委員会 平成22年12月22日(水)	子ども読書活動推進計画の検討 ・計画の第1章及び第2章の検討
第6回子ども読書活動推進計画策定委員会 平成23年2月18日(金)	子ども読書活動推進計画の検討 ・計画の第3章の検討
第7回子ども読書活動推進計画策定委員会 平成23年3月3日(木)	1. 子ども読書活動推進計画の検討 ・計画の第4章及び全体の検討 2. 参考資料の検討



羽生市子ども読書活動推進計画

『子どもが本と親しみ、
生きる力と想像力と豊かな心を
培うために』

平成23年3月

発行 羽生市教育委員会
企画・編集 羽生市教育委員会生涯学習部生涯学習課
〒348-8601
TEL : 048-561-1121
FAX : 048-561-6562